

第7回海外チャレンジ支援 留学生帰国報告会

1、報告会の主旨・狙い

- 1) 留学生の成果・成長を共有し、国際交流事業の目的であるグローバル人材となる、に向けての歩みを確認する。
- 2) 今後の国際交流事業をより魅力的な活動にするための課題発見の糧とする。
- 3) 財団役員・国際交流事業部会員・海外派遣経験者（OB）・現役高校生・大学生の交流の場とする。
- 4) 現役の高校生・大学生に将来の留学を考える切っ掛けを提供する。

2、開催日・会場

- 1) 開催日時：2024年12月21日（土）17:00～19:30
- 2) 会場：小山台会館 大ホール

3、報告会次第

第1部：報告会

- 1) 17:00 佐々木部会長 開会挨拶
- 2) 17:05～18:05 帰国報告（各20分：報告10分、質疑応答10分）

	報告者	所属	留学先	資料頁
17:05～ 17:25	中野 瞳 ナカノ ヒロミ	東京外国語大学	英国 エセックス大学	2頁～
17:25～ 17:45	小川拓志 オガワ タカシ	東京外国語大学	ポルトガル リスボン大学	31頁～
17:45～ 18:05	上樂光汰朗 カミノミツタカ	埼玉大学	イタリア トリノ大学	57頁～
18:05～ 18:15	前回報告者からの便り			81頁～
18:15～ 18:20	講評：小山副校長、和田副理事長			—

第7回海外チャレンジ支援 募集要項を86～93頁に添付

休憩：18:20～18:25 机・椅子の配置換え（ウェブ参加者は以上で退室）

第2部：懇談会

- 5) 18:25～19:15 帰国留学生を囲んでの懇談会（軽食・飲物あり）
- 6) 19:15～19:30 みんなで机・椅子の後片付け
- 7) 19:30 全員退室退館

中野 瞳

報告会報告書、プログラム修了報告書

2023年度 海外チャレンジ支援

イギリス留学 体験報告

東京外国語大学 中野瞳



自己紹介

名前：中野 瞳（なかの ひとみ）

出身：小山台高校 73期生
東京外国語大学/言語文化学部/英語科

専門分野：第二言語習得

留学先：イギリス、エセックス大学

留学期間：2023年10月 2024年6月（9か月）



エセックス州・コルチェスター



エセックス大学



Agenda

- 01 留学のテーマ
- 02 テーマの振り返り
- 03 留学を通して得た気づき
- 04 まとめ

01.

留学のテーマ

テーマとテーマに込めた思い

留学のテーマ

言語の壁を越える

テーマに込めた思い①

言語やバックグラウンドが違う人とつながりたい。友達になりたい。

そのために

- ・英語でのコミュニケーション能力を磨きたい。
- ・伝わらなくても諦めない！！

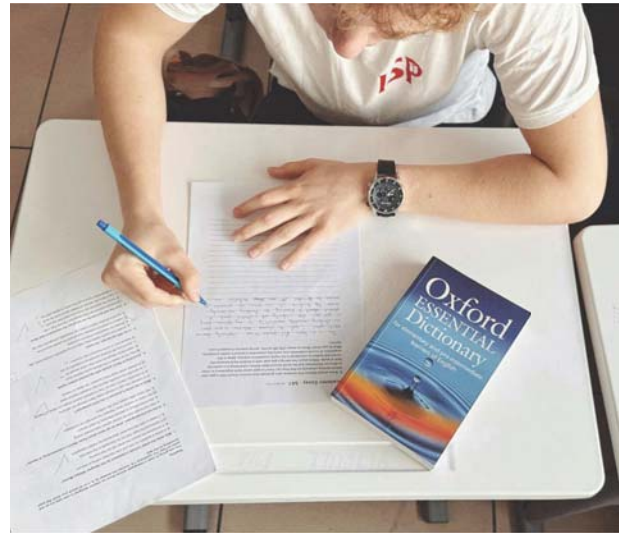


テーマに込めた想い②

第二言語習得についての知見を深めたい。

※第二言語習得とは？
人が母国語ではない言語を習得するメカニズムやプロセスを研究する分野。

→人はいかにして母国語と外国語の間にある壁を乗り越えるのか？



テーマの振り返り

達成度とエピソード・授業で学んだこと

02.

言語の壁は超えられた？

YES or NO

but...

エピソード① スイスで過ごしたクリスマス



エピソード② アルバイト経験



ある日のまかない



店内の様子



春節パーティ

授業での学び①：完璧な英語は存在しない？

ネイティブでも発音や語彙に地域差アリ

独特ななまりも数多くみられる

英語は国際語、母語話者でなくともみな自信を持って英語で話す！

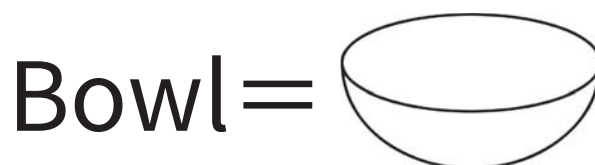
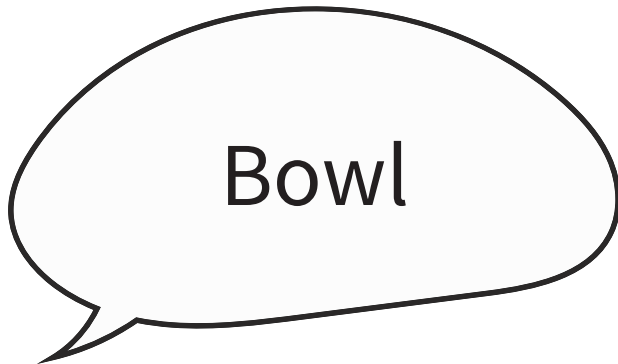


授業での学び②：言葉の意味を学ぶとは？

認知言語学＝人がどのように言語を認知するかという学問



授業での学び②：言葉の意味を学ぶとは？



授業での学び②：言葉の意味を学ぶとは？

bowl ≠ ボウル

語が指す概念そのものや、
語意味する範囲を学ぶこと

→より有意義で深みのある語彙学習



03.

留学を通して得た気づき

エピソード2選

2. 友達は数じゃない

たくさんの人と同時に友達になるのは実は苦手…

でも！

家族のことから文化、宗教、政治のことなど、様
なんでも話せる友達が出来た

→外国にも親友がいるって心強い！！



3. 外から見た日本

海外での日本の影響力

ユニクロ・無印・トヨタ・ポケモン…

意外と多い？日本語学習者



毎日お寿司を食べている？





まとめ

04.

まとめ

充実していて本当に楽しい9か月間でした！

目的や計画を事前に立てていたこと

積極的に挑戦できたこと

目的が大切！
誰でも留学は楽しめる！



THANK YOU FOR LISTENING

ご清聴ありがとうございました。

1. 概要

(1) 氏名

ふりがな	なかのひとみ	提出日	2024年 8月 26日
氏名	中野瞳	報告の 対象期間	2023年 10月 1日～ 2024年 6月 30日

(2) 在籍校の情報(記入日時点)

学校名	東京外国語大学	学部名	言語文化学部
ふりがな	とうきょうがいこくごだいがく	学 年	4年
学科 専攻・コース 等	言語文化学科 英語専攻		

(3) 卒業校

※当てはまるものに「●」

学校名	小山台高等学校	課程	●	←全日制	卒業年月 (西暦)	2021年
				←定時制		3月

以下当てはまるものに「●」を入力

●	←在籍大学の協定・交換留学・学術交流	長期留学
	←在籍大学の研修プログラム	短期研修
	←在籍大学以外の国内機関主催・斡旋の留学プログラム	多様性 キャリア開発
	←その他・特定のプログラムには参加しない。	

以下当てはまるものすべてに「●」

	←(1)本留学・研修は、在籍大学卒業に必須な留学である(卒業必修要件、必修科目等)
●	←(2)本留学・研修は、在籍大学の単位として認定される留学である
	←(3)上記(1)、(2)のどちらでもない

留学期間	2023年 10月 1日 ~ 2024年 6月 30日
留学国/地域	イギリス/エセックス州

2. 留学計画の概要

(1) 留学計画のテーマ

言語の壁を超える

(2) 留学の内容(実践活動を含む)

留学計画の概要

留学中の主な活動内容については、英語教育学に関する授業の履修であるが、その周辺分野である英語の言語学的な側面についても学習したい(音声学、語用論等)。その理由としては、英語の根本的な言語構造を知っておくことは英語教育に非常に役に立つと考えるからである。また、海外の大学で研究するための基礎知識も writing の授業等を通して補いたい。授業の履修以外に関しては、サークルやボランティア等の活動に積極的に参加し、現地の学生や他国からの留学生等と積極的に関わる。

留学内容(実際に実施した活動)

① 学業面

計画通り、言語学習や言語教育に関する科目を中心に履修し、これまで日本で履修してきた授業とは別視点から、より発展的な内容について学んだ。また、興味があった第二外国語であるスペイン語の授業、音声学の授業も履修した。さらに留学生向けのサポートクラスや普段のレポート執筆を通してアカデミックな英語力を身に着けることが出来た。

② 生活面

留学生同士の交流で出会った友人とイギリス国内を日帰りで旅行することや、秋学期のみで帰国した友人を訪問してヨーロッパを案内してもらうということがあった。それに加えて、ヨーロッパ内を韓国人の友人と周遊したり、一人旅に出かけてみたりととにかくたくさん旅行をした。また、冬からは日本食レストランでウェイターとしてのアルバイトを始め、学生だけでなく様々な年齢層のお客さんと話す機会が増えた。

(3) 留学の動機と背景

留学をしようと思った動機

小さいころから海外に行ってみたいという夢がなんとなくあったが機会はなく、いつか海外旅行にいたり、海外の人と友達になったりすることを夢見て、中高時代は英語の勉強に力を入れていたが、大学選びをしている段階で、大学在学中に約 1 年間の長期留学に行く人がいるということを知った。その時から大学生活のうちに留学するということはほぼ決めていて、外大を選んだ理由はそれだけではないが、入学当初からずっと派遣留学を意識していた。ただ、一度も海外に出たことがないのにいきなり 1 年ということに不安があったため、2022 年の夏にカナダへ 3 週間行ってみたところとても楽しく、ここで絶対に長期留学に行くことを心に決めた。留学しようと思った最初の動機は好奇心や憧れだったが、もともと勉強することは好きなので、大学で単位取得する留学である派遣留学を選び、学業面で挑戦したかったという想いも持っていた。

3. 留学の成果及び留学経験の活用

【公表用】

(1) 留学の成果

※留学計画にそくして留学/研修でどのような成果を得たか。

計画通り言語の教育、学習に関する授業を主に履修していく中で、専門知識を深めていくことが出来たと考えており、ここで得た知識はまずはこれから始まる卒業研究で生かせるものだと思う。また、主にレポート評価により出された学業成績を見ても予想以上に高い評価を得ることが出来たことから、授業の理解やライティング能力の面でも達成度が高かったと考えている。

第二の目的としていた人とかかわりに関しては、たくさん友達をつくったとは言えないが、自分の国の文化や政治、宗教のことやプライベートのことまでなんでも腹を割って話せる友達が海外にもでき、彼女らと話すことで英語力を高めるだけでなく様々な価値観を知ることが出来たと思う。また、アルバイトをきっかけに、エセックス大学の学生はもちろんだがそれだけでなく子供から大人まで幅広い年齢層の多様なお客さんとコミュニケーションをとる機会が増えた。もともと多様性にあふれる地域柄であるため、お客さんの話し方も要望も多様で、それに対応することはとても難しかったが、柔軟な対応力を身に付けられたと思う。

(2) 自己の成長

※留学/研修を通じて身についた力や留学/研修で得た学びとその理由・背景

① より洗練された英語力

授業を通してアカデミックな文章を書けるようになった。表現したいことをよりの確に言い表せるようになった実感があるから。また、英語を話すときに相手や場面まで考慮できるようになったと感じるから。

② 目標や計画を立てて実行することの大切さ・楽しさ

大学への提出書類や本支援プログラムをきっかけに細かく留学計画を立てることとなったが、留学中も常に指標がありモチベーションを高く保てた。またたくさん旅行をしたが、毎回下調べをして一から予算やルートを考えること、自分で作ったプランに従って旅行が上手くいくことがすごく楽しかった。目標立て→プランニング→実行のプロセスで成功までもっていくという経験は自信にもつながるし、今後もこの経験を生かしていきたい。

③ 自己理解が高まった

実家暮らしの日本での生活と比べて一人で過ごす時間が必然的に多くなるのに加えて、イレギュラーな出来事も多いため、その時々で自分がとった行動や自分が感じたことを振り返ると、自分の得意なことや苦手なこと、興味のあること、好きなこと、人との関わり方、価値観など、自分で気づけなかった自分の一面に気づくことが多かったと思う。

(3) 留学経験・留学の成果の活用

※留学/研修の成果・経験を将来に渡りどのように活用するか。今後の展望。

① 今後の大学生活

- ・留学中に学んだ内容を生かしつつ、卒業研究でさらに言語教育に関する研究を深める。
- ・留学目指している在学生ののための活動を通して、これから留学したい人のサポートをする。

② 卒業後

- ・言語学習の在り方をもっと多様にしたい。特に CALL (computer assisted language learning) を活用すればより個々のニーズに合う言語学習プログラムが提供可能になるのではないかと考えている。また、母語、第二言語の習得どちらに関しても、SES (socio economic status) と言語能力の高さが比例するということを学び、教育格差をなくしていくことが重要であるとも考えている。

4. 受入れ機関の概要

【公表用】

受入れ機関の名称
エセックス大学
受入れ機関の所在地
コルチェスター CO4 3SQ ウィヴィンホー・パーク
受入れ機関の概要及び特徴
1964年に創立された英国の研究型国立大学で、130か国以上の国から留学生や講師が集まった、コスモポリタンな環境である。社会科学、人権分野の研究で世界的に高い評価を得ている。また政治経済や、言語の分野の研究も注目されている。
受入れ機関の様子
交換留学生の受け入れはもちろんのこと、正規留学生の受け入れも積極的であり、かなり国際色豊かである。キャンパスの敷地は広大だが、講義棟の規模やクラスのサイズは大きくなく、生徒数もそこまで多くはない。自然が豊かでスポーツ施設が充実したキャンパスである。

受入れ機関の様子が分かる写真



(1) 授業履歴 (※受講した授業のシラバス等授業内容が分かるもの及び成績表のコピー・提出したレポートを添付すること。)

受講した授業科目名	受講期間	週当たり 時間数	単位数	授業の内容 及び授業から得られたこと
Introduction to TEFL methodology	2023 10 月 - 12 月	2 時間	15	英語を外国語としている生徒向けに授業を行う上で考慮すべきことについて学んだ。また、“二時間の授業の計画を立てる”という課題を通して、レクチャーから得たことを活用して教材を活用する、指導方法を考案するといった実践練習を行った。
Teaching languages in different contexts	2023 10 月 - 12 月	2 時間	15	言語教育の多様性について学習した個人の特性(性格や得意、苦手分野など)や集団の特性(年齢層、第一言語など)が多岐にわたるということを理解したうえで、特性に合わせた指導方法や教材の選択をする必要性を理解した。
Child language development	2023 10 月 - 12 月	2 時間	15	子供の第一言語の習得について言語学的な分野別に学んだ。主に年齢や発達段階に着目した。子供が自然に言語を習得する過程においても、個人差が大きくみられること、バイリンガルや学習障害などが発達の過程に影響を及ぼすことを知る事が出来た。
Lower intermediate Spanish	2023 10 月 - 2024 年6月	3時間	30	外大で第2外国語として履修していたスペイン語学習を続けるために履修した。文法や語彙が日本語よりも似ている英語を通してスペイン語を学ぶことで、スペイン語に対する理解が深まった。また第二外国語以上のレベルのスペイン語を学習することが出来た。今学期も継続して履修中。
Academic speaking skills	2023 10 月 - 12 月	2 時間	0	大学での授業に役立つスピーキングスキルの向上を目指す、英語が母語でない学生向けの授業。プレゼンテーションやディスカッションの練習の他、より言いたいことが明確に伝わるイン

				トネーション、リズムの付け方などを学んだ。
Academic writing skills	2023 10 月 - 12 月	2 時間	0	レポート等を書く上で必要な英語の基礎力向上を目指す授業。話し言葉を、書き言葉に変える練習や、文章を要約する練習を行った。
English around the world	2024 1 月 - 3 月	2 時間	15	世界の各地域で話されている英語の違いを主に音声学的な視点から観察した。特に英語圏内での発音の違いに着目することによって、一概にネイティブスピーカーと言っても地域によってかなり違う発音をしているということが分かった。
Multilingualism	2024 1 月 - 3 月	2 時間	15	バイリンガルやマルチリンガルの人がどのように言語を処理しているのかについて様々な実験データを参照しながら考察していく授業。習得している言語が増えるほど、言語学習が容易になっていくこと、社会的、経済的状況が学習進捗に影響を与えることなどについて学んだ。
Cognitive linguistics for second language learning and teaching	2024 1 月 - 3 月	2 時間	15	認知言語学の基礎を学び、認知言語学を教育にどのように応用していくか考察した。認知言語学では、人は概念をどのように言語化するかや、比喩的な表現はどのようにして理解されるか等について学んだ。

(2) 参加した行事／イベントなど (※パンフレットなど内容が分かる資料があればコピーを添付のこと。)

行事／イベント名	日時	主催者	行事／イベントの内容及び得られたこと
Incoming Exchange Welcome Party	10 月 3 日, 2023	Essex abroad	交換留学生の交流会。 条件に当てはまる人を探すゲームなどを通して様々な国からの交換留学生と知り合い、話すことが出来た。
Asian Mixer	10 月 5 日, 2023	Student Union	アジア人学生同士が知り合うためのイベント。 正規留学で 2 年目や 3 年目の学生とも知り合うことが出来、英国で生活するうえでのヒントやおすすめスポットなどについてたくさん教えてもらった。

Lunar New Year showcase	2024年2月10日	Chinese Society	獅子舞や伝統的な中国の踊り等を見ることが出来た。中華系の学生を中心に多くの人に参加しており、春節が一大イベントであることを初めて知った。
Holi	2024年4月30日	Student Union	顔料の入ったボールを投げつけあうインドのお祭り HOLI を再現したイベント。グラウンドに集まり、参加者同士がカラフルな顔料をかけ合う。日本ではできない体験でとても楽しかった。

(3) 留学で得られた学位や資格等 (※証明書などがあればコピーを添付のこと。)

成績証明書を添付します。

※宿泊先での生活や特に注意したこと

なるべく夜に一人で外出をすることは避けていましたが、比較的夜間も安全だと思う。夜間は繁華街には治安の悪い場所もあるらしいが、キャンパス周辺はとにかく静かだった。フラットメイトとキッチンを共同で使っていたので、スペースを占領しないこと、きれいに使うことを心掛けていた。

6. 留学を考えている人へのメッセージ

留学をしてよかったこと、留学前にやっておけばよかったこと、留学を勧める理由/進めない理由など

私は本当に留学してよかったと思っていますが、それは自分のやりたいことが留学を通して出来たからです。留学は目的ではなく手段だと思います。留学することを目的にするのではなく、まずは自分が学生生活の中で何をしたいのか具体的に考えてみてください。その中でそれが留学することで達成することが出来ると感じた方は、とにかく留学のチャンスを探して、挑戦してみるだけだと思います！留学の目的さえブレなければ、きっとうまくいくと思います。

また、留学前の皆さんにお伝えしたい私の留学後の気づきとしては留学に向いてる/向いてない性格はないということです。例えば私は留学前、人見知りだし、内向的だし、たくさん友達作れないかもしれないという不安を持っていました。しかし、結果的にはたくさん友達を作ることがすべてではないと気づきました。私は今遠く離れていても連絡を取り合い、何でも話すことが出来る親友が日本だけじゃなくて海外にもいるということをすごく心強く感じているし、誇りに思っています。留学の在り方は一つじゃないので、大切なのは自分のことを理解して自分に合った交友スタイルやライフスタイルを築いていくことだと思います。またそれが海外という慣れや親しみのない土地でもできたということは、今後自分の人生を自分で切り開いていくための自信や糧となると思います。

写真	説明
	<p>秋学期で留学が終了するスイス人の帰国に合わせてスイスを訪問した。ちょうどクリスマスの時期だったのでクリスマスパーティーに招かれ、全員で約30人の親戚や友人同士で集まるパーティーだった。日本とは違うクリスマス文化を知ることが出来た。</p>
	<p>スイスと一緒に訪問した韓国人の友人と二人でそのままフランスへ向かい、パリで2024年のカウントダウンに参加した。オリンピックに向けた特別なプロジェクションマッピングを見ることが出来、特別な年明けとなった。カウントダウンの翌日からはパリの観光に出かけ、有名な美術館を巡ることが出来とても嬉しかった。</p>
	<p>現地の日本食レストランでアルバイトを始め、春節の時期にレストランのクローズ後にお祝いパーティが開かれた。レストランは中国系のオーナーにより経営されており、従業員も半分以上が中国語を話すため、従業員同士のコミュニケーションは中国語で行われていることも多い。しかし、同じくウェ이터として働いている中華系マレーシア人の方に、中国語を理解できなくても怖がる必要はない。私たちの中には英語が得意じゃない人もいるから、中国語が飛び交うこともあるけれど、私たちは言語関係なく食べ物シェアする仲間だということを覚えておいてね。と声をかけてもらってから、楽しく働けるようになった。</p>



3月末のイースター休暇を利用して、秋学期のみの交換留学に来ていたベルギー人の友達を訪問した。オランダ、ベルギーの様々な観光名所を案内してもらった。写真は最終日ブルージュにて撮影したものである。昔ながらの街並みがとてもきれいだった。久しぶりに再開したくさん話すことが出来て非常に充実した4日間であった。

8. 留学に関連した費用

【公表用】

費用調達

調達先	摘要	金額
在籍校奨学金	JASSO	85万円
在籍校以外の奨学金	海外チャレンジ支援	70万円
現地アルバイト給与	レストランでのアルバイト(6か月程度)	65万円
合計		220万円

支出経費

費目	予算額	実績	研修参加費に含まれる場合は、●を付ける	摘要
「研修参加費」 ※在籍大学・主催者に一括で支払うもの	円		←往復航空運賃	
			←宿泊費	
			←食費	
			←その他	
以下の欄には、上記「研修参加費」に含まれる予算額は記載しない。(二重)				
費目	予算	実績	摘要／差異の内容	
往復航空運賃	25万6000円	25万6000円		
学 費	在籍大学授業料	53万5800円	53万5800円	
	現地学校等授業料	円	円	
	その他	円	円	
現 地 滞 在 費	家賃/宿泊費	87万円	120万円	家賃の値上げと円安の影響
		円	円	
そ の 他	海外旅行保険	10万円	10万円	
	ビザ取得料	8万円	8万円	

合計	184 万円	217 万円	現地通貨レ ート	1 ポンド=約 190 円	
				通貨単位名	ポンド(GBP)

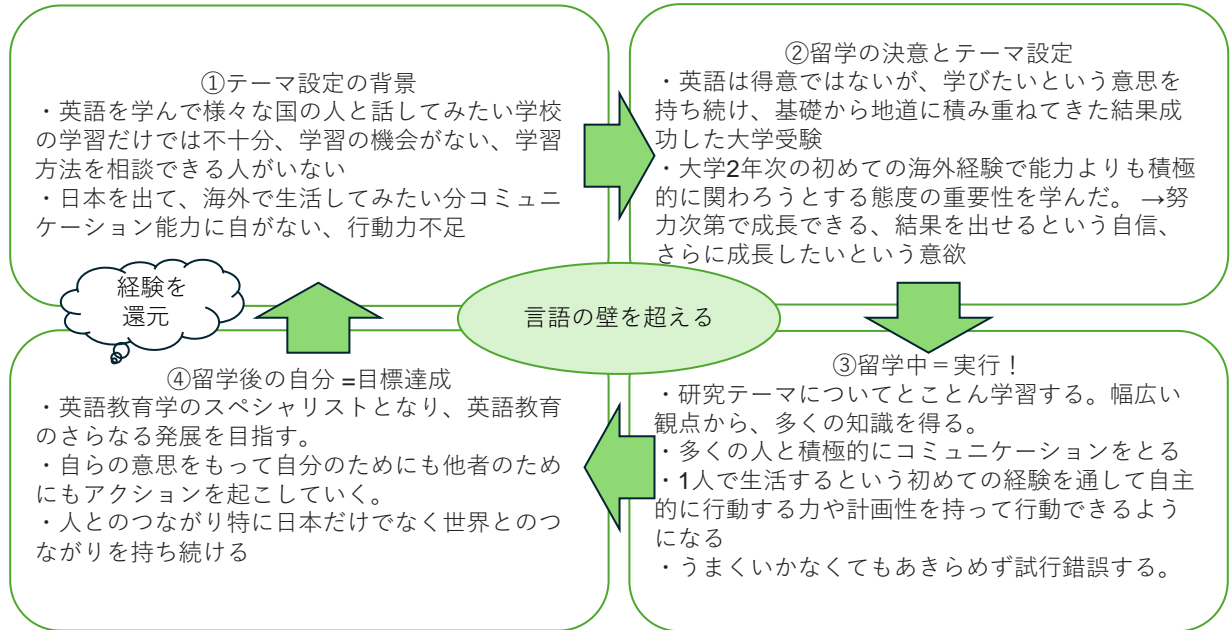
※合計欄には「研修参加費」を含む費用の総額を記入のこと。

- ① 留学のテーマに関する報告
- ② 留学を終えて、自分自身の成長や学び(実感したエピソードを含め)

※①・②について、それぞれタイトルを付け各2～3ページ程度にまとめてください。

※写真、画像、グラフ等の挿入、貼り付けは自由です。

留学のテーマに関する報告① -留学前の私の留学ビジョン-



1

留学のテーマに関する報告② -留学後の振り返り・目標達成の理由-

①学業面での目的の達成

- ・言語学習を教育者の立場から考える授業と学習者の立場から考える授業両方を受講したことにより、様々な角度から学ぶことが出来た。
- ・外大での授業よりも専門的な内容や、外大の授業であまり扱われない関連分野（脳科学的な分野）についても学ぶことが出来とても興味深かった。
- ・英語でレポートを書く能力が向上し、よい評価を得ることが出来た。

②言語の壁を越えた！と感じた経験

- ・初めて日本語を話さない人と、何でも話せる親友になれたこと。いつか国境を越えてまた会おうと約束したこと。
- ・休暇期間にヨーロッパに住む友人が母国を案内してくれて、楽しい時間を過ごせたこと。
- ・日本食レストランのアルバイトで、お客さんと日本の食事や文化についてたくさん話せたこと。
- ・アルバイト先のあまり英語を話さないシェフ達と、話し方やジェスチャーを工夫することでうまくコミュニケーションが取れるようになったこと。

2

<自分自身の成長や学び>

①全体的な英語力の向上

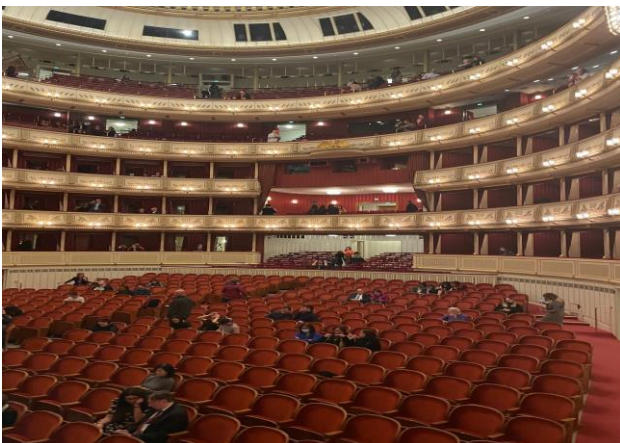
授業、友達との会話、アルバイトでの接客を通して英語を使うことは当たり前だが必須であったので、4技能バランスよく伸ばすことが出来たと考えている。その中でも特に苦手としていた「話すこと」に抵抗がなくなった。また留学経験を通して**理想の英語＝必ずしもネイティブのような英語ではない**という考えに至った。

その理由は、留学を通して英語の多様性を知ったからである。留学先には様々な国からの留学生が集まっており、さらには教授のバックグラウンドも多種多様であった。しかし私が留学先で出会った人たちの多くは、いわゆる「アメリカ英語」や「イギリス英語」のようなアクセントを持っていなくとも、皆自信を持って英語を話しており、アクセントの違いを気にする人はさほどいない印象だった。さらに私自身も彼らとのコミュニケーションを通して様々な種類の英語に対応する能力が身についたと感じている。この経験から、得た考えが二つある。

1. 言語は表現のためのツールであり、形式にこだわることよりも伝える能力を磨くことの方が重要である。
2. 特に英語は母語としない話者が多く今や世界共通の言語になりつつあるため、多種多様に存在するアクセントや表現方法に柔軟に対応する能力は今後ますます必要になってくるのではないかと。

②自分自身で考えて行動を起こしていくことの楽しさ

留学すること自体自分で決めて計画を立て実行した経験ではあるが、ここでは特に旅の経験について言及したい。私は留学中の9か月間にイギリス国内を除いて全11か国21都市を旅行し、気づけば約1か月半をイギリス国外で過ごしていた。旅のカタチも様々で、韓国人の友人との旅行、ヨーロッパに住む友人宅での宿泊、一人旅、日本から来た友人と現地で待ち合わせての旅行などさまざまであった。しかし、その中でも共通して行っていたことがある。それは綿密なスケジュールと予算の管理である。もちろん学業を最優先にしながら、その合間を縫うように旅行計画をはめ込み、旅行中のスケジュールも限られた予算と時間の中で行きたい場所を吟味し優先順位をつけながら入念に作成した。こうして自分のためにつくったオリジナルのプランに従って、行きたいところに行き見たい景色を見ることが出来たという経験はとても大きな達成感につながるものであった。また、いつもすべてが計画通りにいくわけではなかったが、そこで何とか別の方法を考えることもまた楽しく、一人旅の場合は自分の対応力を試す機会に、友達との旅の場合は話し合いを重ねることによりさらに絆を深める機会になった。



←初めての一人旅は憧れの国、オーストリアへ行った。
事前に調べて見つけた学割チケットで有名なオペラ座のかなりいい席でバレエの公演を見た。圧巻だった。



←留学の終盤、大英博物館の展示がきっかけで興味を持ったエジプトへ行った。今回はエジプトに興味を持っていた日本の友人と現地集合・解散。文化やインフラの面でも日本やヨーロッパとは全く違ったこともあり、新しい経験がたくさんできて学びの多い旅であった。

③自己理解が高まった

これは誰もが留学でしか得られないことではないと思うが、私にとっては留学が自己理解のきっかけになったと思う。おそらく留学中は日本にいるときよりも一人で考えて行動する時間が多かったことや毎日日記を書いて出来事や気持ちを言語化していたことが要因だろう。特に自分のコミュニケーションの取り方・人との関わり方の特徴や、挑戦・新しいことに対する態度に関しての気づきが多かった。まず一つ目のコミュニケーションに関しては、新しい友達を作ることを通して、みんなでワイワイするよりも、少人数で一人ひとりと向き合うが得意であるという気づきや、アルバイト経験を通して、コミュニケーションを通してお客さんを笑顔にすることが好きであるという気づきを得た。このことには日本での大学生活やアルバイト経験でも気づいていたかもしれないが、コミュニケーションがすべて英語で行われていた場合でも同じであったことから、使う言語関係なく私自身のコミュニケーションスタイルがあることを再確認した。また自分は人見知りだと思っていたが、一度にたくさんの初対面の人と出会う状況が苦手なだけで、新しい友達を作り、今まで知らなかった文化や価値観を知ることはすごく好きであるという気づきもあった。二つ目の挑戦への態度に関しての気づきは、私は案外恐怖心があまりなく、とにかく挑戦してみることがすごく好きであるということである。なぜこれが意外だったかというと、私は、幼少期や中高生時代どちらかと言えば臆病な方でありなんとなく家族や幼馴染もそして自分自身も私に対してそのようなイメージを持っていたからである。その一方で、留学中は新しいことに挑戦することに常にワクワクしていて、実際にたくさんの挑戦をしていた。今思えば大学受験や短期留学、そして長期留学へ行くという決意を経て、気づけば新しいことへの挑戦をすごく前向きに捉えることが出来るようになっており、自分ならうまくやれるかもしれないという自信も芽生えていたのだと思う。しかし留学中に実際に様々なことに挑戦できるチャンスがあったからこそ、そのような自分の一面に初めて気が付くことが出来たのだと思う。

小川拓志

報告会報告書、プログラム修了報告書

ポルトガル留学報告



2024/12/21

小川拓志

サンジョルジェ城と首都リスボンの町並み

リスボンの町並み

自己紹介

- 小川拓志（小山台高校73期:2021年3月卒）
- 東京外国語大学言語文化学部ポルトガル語専攻4年生

- 留学期間：2023/08/15~2024/07/12
- 留学先：ポルトガル/リスボン大学文学部（交換留学）



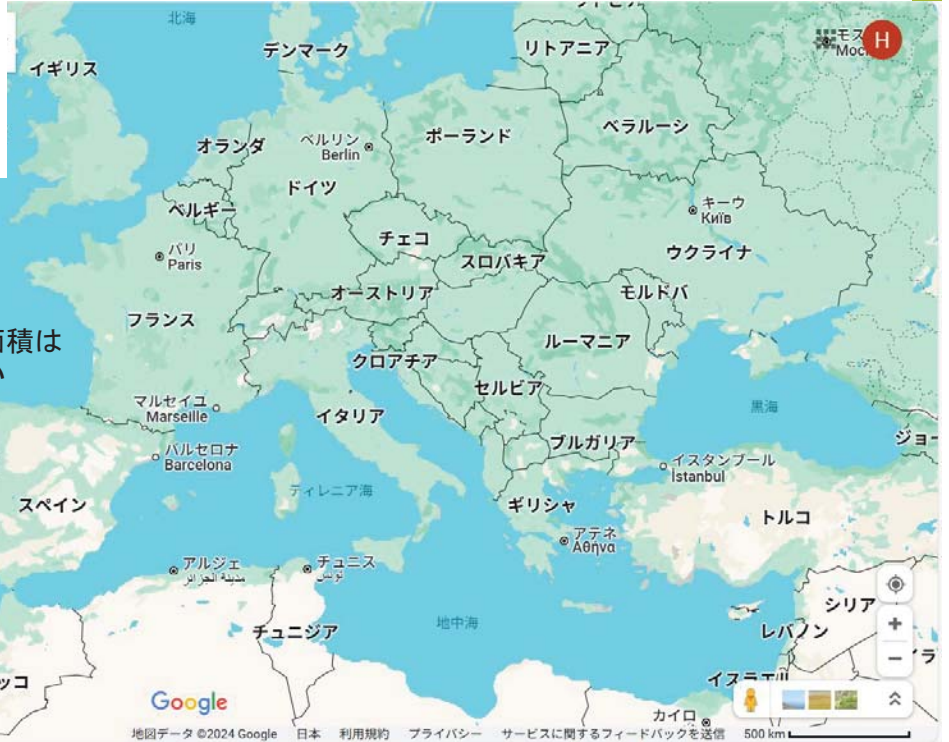
ケーブルカー（リスボン）

大陸最西端ロカ岬



世界遺産ペーナ宮殿

留学先紹介



↓アソーレス諸島
(リスボンから
飛行機で2時間)

ポルトガル本土の面積は
北海道より少し広い

マデイラ諸島→→
(リスボンから
飛行機で1.5時間)

留学先紹介

- ポルトガル:人口約1030万人
- 首都:リスボン:人口約50万人 (首都圏人口は約300万人)
- 本土+アソーレス諸島 (9島) +マデイラ諸島 (2島)

<リスボン大学>

- ポルトガルで2番目に古い歴史を持つ国立大学
- ヨーロッパを中心に世界から留学生を受け入れる
- 文学部、法学部、薬学部、工学部など



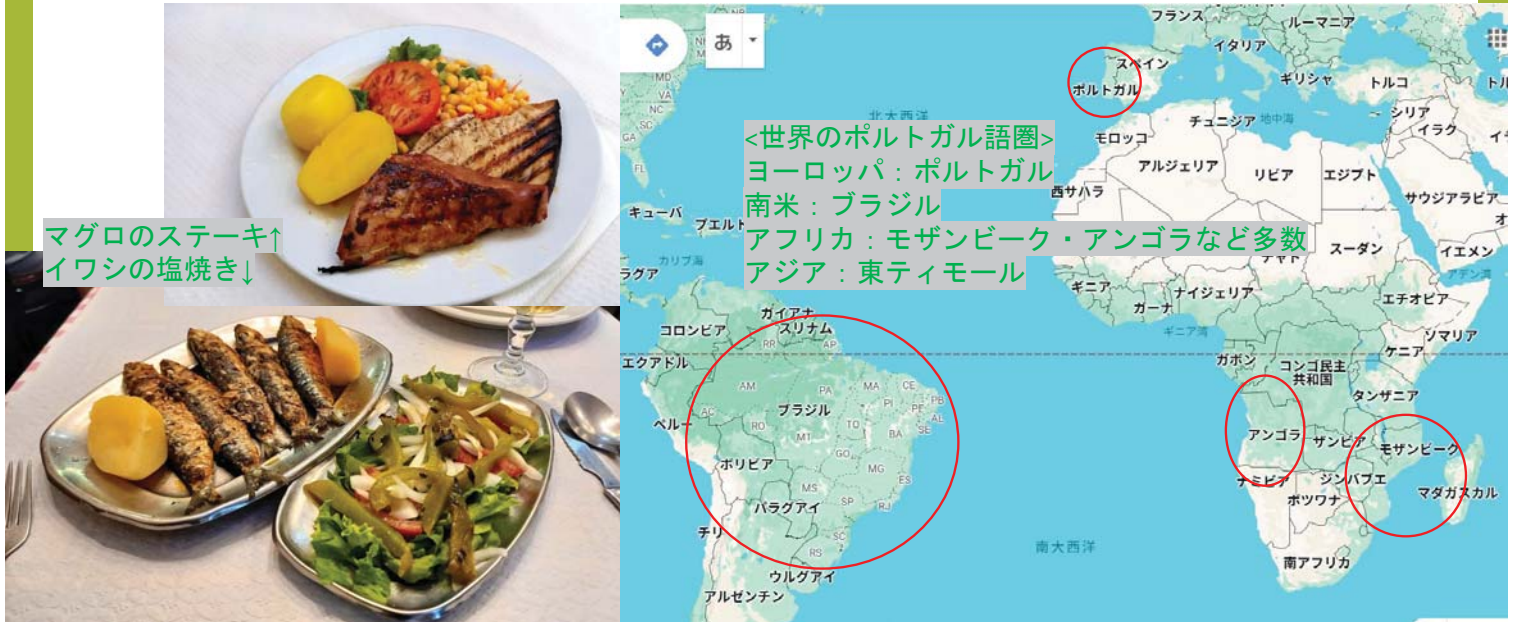
コメルシオ広場 (リスボン)



リスボン大学文学部図書館

エドゥアルド7世公園 (リスボン)

なぜポルトガルに留学したのか？



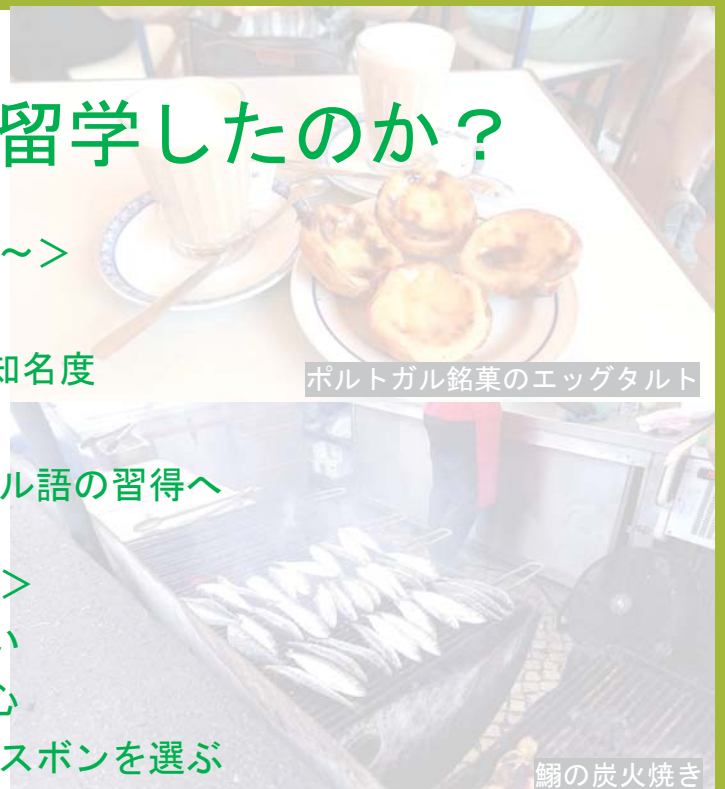
なぜポルトガルに留学したのか？

<大学入学前～ポルトガルへの意識～>

- 海外に住みたい
 - 住む条件：気候+食文化+日本での知名度
- ポルトガルに関するテレビ番組
→ポルトガルに住みたい→ポルトガル語の習得へ

<大学入学後～リスボンへの意識～>

- ポルトガルに関する学びを深めたい
 - アフリカのポルトガル語圏への関心
- ポルトガルの中心である首都のリスボンを選ぶ



留学テーマ・計画

- ・大枠：「ポルトガル語圏と日本の相互理解を深める」

＜ポルトガルマスターになる＞

- ・ポルトガル語能力+ポルトガルの文化/歴史/風土

＜ポルトガル以外の他国について＞

- ・アフリカのポルトガル語圏+ヨーロッパ圏の留学生との関わり

＜日本の発信を行う＞

- ・現地の人日本語習得+文化の相互理解



ユーラシア大陸最南西端のサンビセンテ岬

留学中の1学期の1週間

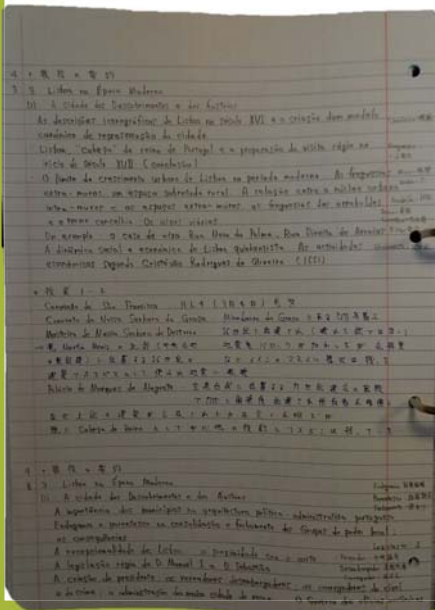
黄色は大学にいた時間帯

時間	月	火	水	木	金	土	日
800~930	晴れてい れば外 出						晴れてい れば外 出
930~1100		課題や復習 ・自炊	O Japão Passado e Presente	課題や復習 ・自炊	O Japão Passado e Presente	リスボン日本語 補習校	
1100~1230			課題・復習		課題・復習		
1230~1400			Japonês 3		Japonês 3		
1400~1530					課題・復習		
1530~1700		Inglês B2.1	買い物		Inglês B2.1	買い物	
1700~1830		História da Cultura Portuguesa	課題や復習 ・自炊	História da Cultura Portuguesa	友達と 遊びに行く		
1830~2030		Evening Course		Evening Course			
2030~	課題や復習・自炊・自由時間						

留学中の2学期の1週間 黄色は大学にいた時間帯

時間	月	火	水	木	金	土	日
800~930					晴れていれば外出	リスボン日本語補習校	晴れていれば外出
930~1100	História de Lisboa	A África no Mundo - Relações Internacionais	História de Lisboa	課題・復習			
1100~1230	課題・復習		課題・復習				
1230~1400	História Moderna de Portugal	História do Lazer e do Turismo	História Moderna de Portugal	História do Lazer e do Turismo			
1400~1530							
1530~1700	課題や復習・自炊	買い物	課題や復習・自炊	友達と遊びに行く			
1700~1830							
1830~2030	課題や復習・自炊・自由時間						
2030~							

<ポルトガルマスターになるために>



←旅行で訪れた島の博物館

歴史の授業に関連した水道橋→

←授業の復習



<マスターになれたと思います>

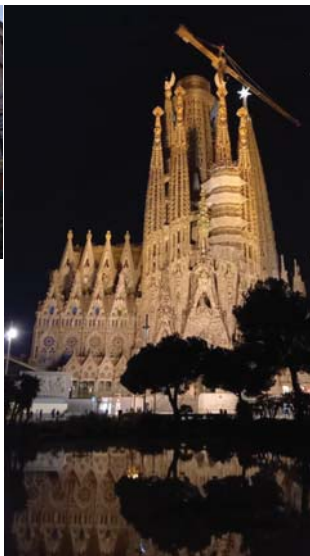
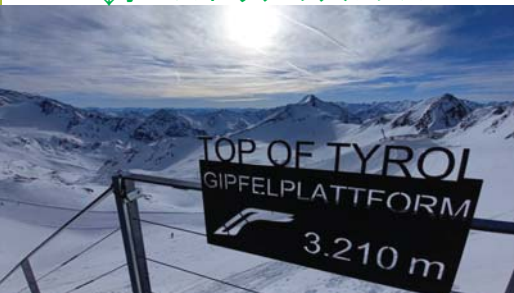
- 言葉・文化・歴史・観光・風土など授業や課題、旅行を通じて知識獲得
- 留学して現地で生活するからこそ新たな気づき・学びを得た
- 例えば...ポルトガル島嶼部の移民の歴史
- これからどうするのか？
- →ポルトガルでの気づき・学びを卒業論文のテーマにする

ピコ島に伝わる伝統的な舟（アソーレス諸島）

<ポルトガル以外の他国について>



↑ブリュッセル（ベルギー）
↓オーストリアのアルプス



バルセロナ（スペイン）



ドイツのクリスマスマーケット



<ポルトガル以外の他国について>



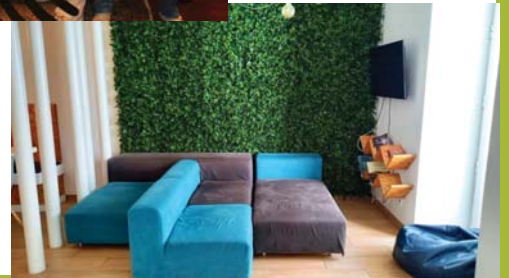
↑イタリア人と
ルーマニア人の友達

ポルトガル人と→
ブラジル人の友達



シェアハウス仲間と
遊びに行ったとき

シェアハウスの
共用部分↓



<ポルトガル以外の他国について>

- アフリカのポルトガル語圏出身の留学生は少なかった
- 大学やシェアハウスでのヨーロッパ圏出身の学生との交流
- 周辺国とポルトガルとの違いや話題に対する各国の見方を学んだ

↑ (自分から知ろうとする姿勢も大事)



バルセロナ (スペイン)



アンドララベリャ (アンドラ)

<日本の発信>

リスボンのラーメン屋。ポルトガル人の間で最も有名な日本食は寿司、その次にラーメン

リスボンにある無印良品だが日本のお店だということあまり知られていない



リスボンにあるポルトガルの偉人のモニュメント。



<日本の発信>

- 授業内での発信→唯一の留学生として「日本ではどう？」
- ポルトガル人の共通認識として、食文化・アニメはもちろん...
「ポルトガルは日本に到達した最初のヨーロッパの国だからね！！」
(→種子島漂着・鉄砲伝来・ザビエルのキリスト教布教や貿易など)
- Q: 東京はどのくらい人がいるか？--- A: ポルトガルの総人口以上
- 自分が日本を知って初めて、発信（言葉・食・休日など...）できる

授業での成長

<História do Lazer e do Turismo (休暇と観光の歴史)の例>

- 少人数の授業で積極的な発言、プレゼン、レポート作成を求められる
 - △:ポルトガル語 ○:発表の方法、課題の構成
- 足りない部分をほかの部分で補って合計でプラスにする

The screenshot shows a lesson plan for 'História do Lazer e do Turismo'. It includes two tables with columns for 'País', 'Ano', 'Tipo de lazer/turismo', and 'Características'. The text discusses the evolution of leisure and tourism in Portugal, mentioning the 19th century and the role of the state. There are also some small diagrams and icons.

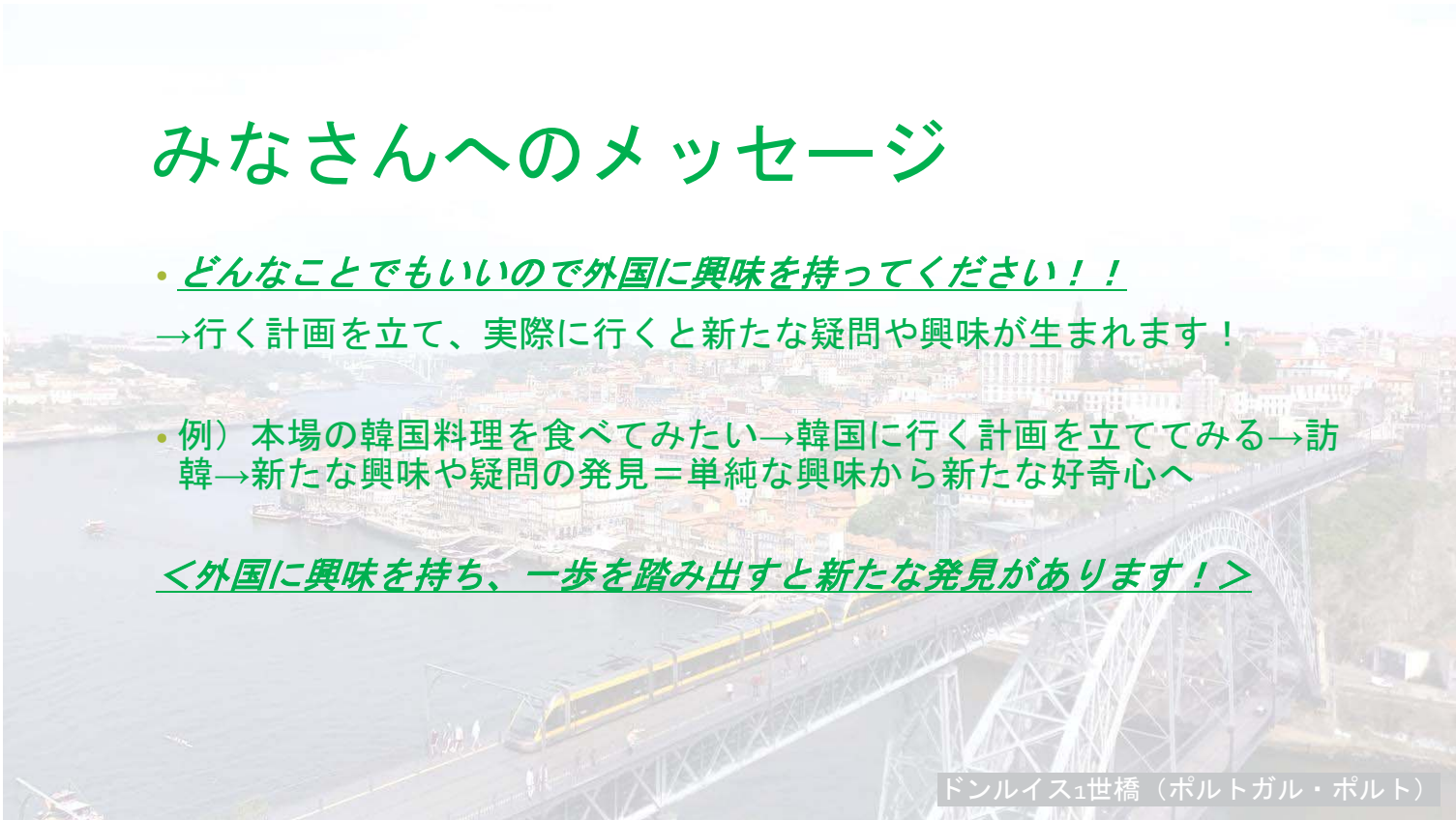
授業課題の
レポートの一部

みなさんへのメッセージ

- どんなことでもいいので外国に興味を持ってください！！
- 行く計画を立て、実際に行くと新たな疑問や興味が生まれます！

- 例) 本場の韓国料理を食べてみたい→韓国に行く計画を立ててみる→訪韓→新たな興味や疑問の発見＝単純な興味から新たな好奇心へ

<外国に興味を持ち、一步を踏み出すと新たな発見があります！>



ドンルイス1世橋 (ポルトガル・ポルト)

ご静聴ありがとうございました。



ポルトガル第二の都市：ポルト



リスボン大学文学部前

1. 課題1

23. Turismo: 旅行. 家を出て他の土地に行くこと. 出張旅行は Travel Journey の訳語とされてきた。(Travel = 旅) *Viagem 参照
 Jp → Pt: Sair a casa e ir aos outros lugares. A palavra foi criada cerca de 150 anos anterior quando "travel journey" em Inglês tinha chegado no Japão. *Viagem 参照

fazer: 暇. 余暇: 余った暇. 中国に入ってきた古い言葉
 Jp → Pt: Tempo livre

Viagem: 旅行: Turismoと同じ

TURISMO
 旅 行 観光

* "Turismo" n 別訳として 観光 (=他国・他地域の国境や中期・長期を長期とする。近年は短期の外出も余暇に日常を越えて行く多様な活動も含まれる。) 前者は中国由来の漢語。
 Jp → Pt: Igual com turismo

* 観光: Olhar e experimentar paisagens ou história nos outros países ou lugares. Recentemente, significa que diversos exercícios para passatempo fora da vida quotidiana.
 Jp → Pt: 観光客: 上記を伴う人
 Jp → Pt: Quem faz turismo ou viagem

課題2

出身 (= Nascimento) . 日数 (= tempo / dia) . 訪問先 (= lugar)
 同伴者 (= com quem?) . 理由 (= razão) . 記憶 (= memória)
 手段 (= como?) . 年齢 (= idade)

内容
 過去. 時間. 文化. 観光. Turismo と Viagem の言葉と念をたてていること
 Lazer とは異なる

人々の昔から旅行するの習慣... 在りか?
 → 暑さ. 安定した天気. 休暇
 その一方で夏の旅行の弊害は...?
 → 夏期に限定された収入源. 地元への物産影響 [ex] Lisboa Paris Venis
 観光利用量 イニテラ. スター. "Sunny Portugal"

Sunny Portugal: 19世紀イギリスCM. ポルトガルは年中温暖と思われていた
 ① Algarve で撮影 (= 朝の気候が素晴らしい) と水た
 日照時間をイメージして作られた
 → 太陽光降り注ぐポルトガル. と見せる
 → イギリス人と "常時晴天. 永遠. 海, のポルトガルの固定観念を年々下

授業を遅けているときに書いたノート

Figueira da Foz: 19世紀以降に多くの観光客が来るとともに在り. スパインの中心の未だありポルトガル中部の主要な海岸

ビーチに行くという習慣はついでに工場労働などが増え屋外での活動時間も減少したことは主に太陽光を浴びるという目的で行われたこと。

1. 課題1

95. ócio: 休息. 暇: Lazerと同じ

休息: 仕事など止めて体を休めること. 古代中国日本へ
 Jp → Pt: Usar trabalhar e descansar-se

recreio: 娯楽: 仕事之余暇に遊ぶこと. 仏教で "心の息を止す"
 Jp → Pt: brinquedo ou divertimento quando nós fazemos no tempo de lazer (= durante fazer), especialmente fazer do trabalho. No Budismo, significa a paz de espírito

praia: 海岸: 陸と海を接する場所. 古くは中国語の水際
 Jp → Pt: Lugar que a terra encontra com o mar

内容

Tourismo → Turismo と変化 Tour は 去来 e volta の意味が (あり).
 Laisare → Lazer 旅行は 去来 e volta までが旅行だった
 18-19世紀の変化

< Um tema privilegiado para a compreensão da sociedade contemporânea >
 Reconhecimento do lazer e das férias como uma necessidade que se entrelaça nos hábitos de consumo
 Elemento da construção das identidades sociais, nacionais e geográficas

社会階級に関連して "海に行く" とは 何の意味も持たないか?
 → 19世紀に 2 階級を 裕ら水着の 時間があるとして 社会階級の 証しと成った
 → さらには 暇に 何を する かの 階級を 決定 つけ 下 (ex) música, futebol ... 何をするかということ

Reconhecimento do seu papel social, ambos o positivo e o negativo
 O turismo e a mudança nas atividades de lazer e nas socializabilidades

1. 概要

(1) 氏名

ふりがな	おがわ ひろし	提出日	2024年8月1日
氏名	小川 拓志	報告の 対象期間	2023年8月15日～ 2024年7月12日

(2) 在籍校の情報(記入日時点)

学校名	東京外国語大学	学部名	言語文化学部
ふりがな	とうきょうがいこくごだいがく	学 年	4年(2026年卒予定)
学科 専攻・コース 等	言語文化学科ポルトガル語専攻		

(3) 卒業校

※当てはまるものに「●」

学校名	東京都立小山台高等学校	課程	●	←全日制	卒業年月 (西暦)	2021年
				←定時制		3 月

以下当てはまるものに「●」を入力

●	←在籍大学の協定・交換留学・学術交流	長期留学
	←在籍大学の研修プログラム	短期研修
	←在籍大学以外の国内機関主催・斡旋の留学プログラム	多様性 キャリア開発
	←その他・特定のプログラムには参加しない。	

以下当てはまるものすべてに「●」

	←(1)本留学・研修は、在籍大学卒業に必須な留学である(卒業必修要件、必修科目等)
●	←(2)本留学・研修は、在籍大学の単位として認定される留学である
	←(3)上記(1)、(2)のどちらでもない

留学期間	2023年8月15日～2024年7月12日
留学国/地域	ポルトガル/リスボン

2. 留学計画の概要

(1) 留学計画のテーマ

ポルトガル語圏と日本の相互理解を深める

(2) 留学の内容(実践活動を含む)

留学計画の概要

<ポルトガル全般に関する知識の増加について>

ポルトガル語圏についてリスボン大学で歴史や人物、文学や文化の講義を通して学習することを考えているが、まずはポルトガル語で行われる講義を最大限に理解するためにポルトガル語の理解能力を向上させたい。現地の発音や早いペースの会話に慣れるために積極的に現地での授業の議論に参加したり、分からない箇所は教授や周りの学生に聞くなど積極的な姿勢で授業に取り組む。その上で、実際に授業で学習した内容に関連するポルトガル国内の様々な場所を訪れてポルトガルについて知識を深めていきたい。講義でポルトガルについて学習し、さらに実地調査のように学習した内容に関わる場所を積極的に訪れることにより、ポルトガルに留学するという、現地に滞在するからこそその方法で知識を身につけたい。

<ポルトガル以外の他国について>

ほかの留学生との交流を積極的に行う中で彼らの国について情報を得て、特にアフリカ大陸のポルトガル語圏を中心に実際に訪れることを考えている。ポルトガルというアフリカにも近い立地を生かして、積極的に授業内容やポルトガル語に関連のある場所に行き、「百聞は一見にしかず」と言われるように実際に見て見聞を広げることを想定している。

<日本の発信>

リスボン大学で開講される日本語の授業を聴講して日本に興味のある生徒がどのように日本語を習得するのか観察し、自身の母語について客観的な理解を深めて自身も日本語教育の手伝いをし、現地の学生からは自身のポルトガル語で不十分な点を指摘してもらうなど、言語を相互に教え合ってお互いの母語と学習している言葉の両方を深く理解したい。また、文化面でも相互に伝え合うことで日本の文化について私自身が改めて深く知り、またポルトガルの文化の理解を深める予定だ。

留学内容(実際に実施した活動)

<ポルトガル全般に関する知識の増加について>

留学中の授業はほぼ全ての授業がポルトガル語で行われたのでポルトガル語の理解能力は伸びた。講義の内容自体はもちろん、教授が説明に使う語彙や発音などにも着目することで、1つの授業で授業内容とポルトガル語の2つを同時に獲得できた。授業後はその内容と語彙について両方の復習を行い、理解が足りなかった授業内容の箇所はインターネットで調べてノートに書き足すなど、授業に遅れをおらないよう努力した。また、休日や授業がない日は積極的にポルトガル国内の地方都市や授業に関連した博物館を訪れるなど、ポルトガルに関する知識を増やすための有意義な活動に時間を費やした。

<ポルトガル以外の他国について>

アフリカ大陸のポルトガル語圏は訪れることができず、リスボン大学への留学生も想定よりも少なかったために交流する機会はあまり得られなかったが、ヨーロッパからの留学生は多くいたので彼らと関わることでヨーロッパのいろんな国に対する知識や興味が高まった。

<日本の発信>

学部の授業では生徒の中に留学生が少なかったため、留学生の意見や発表を求められたときに自然と自分が発言せざるをえないことがあった。そのときには当然日本のことについて授業テーマに沿った発言や発表をするため、日本の発信をすることができた。学校ではほかにも1学期に、学部のポルトガル人向けに開校される日本語の授業(中級コース)を聴講し、異国でどのように日本語が教育されているのかを学ぶ機会を得た。

学校以外にも日本に興味を持っている人に会う機会はかなり多く、例えばシェアハウスでは日本語や日本文化、日本での生活に関する質問を受ける機会は多くあったので日本についての発信をすることが出来た。さらに、リスボンにある日本語補習校という日本人の子供(幼稚園～中学部)に日本の国語と数学の教育を行う学校(毎週土曜日に開校)でボランティアをさせていた。授業や校内イベントの設営の補助を行った。

留学をしようと考えた動機

<ポルトガル全般に関する知識の増加について>

日本の大学入学前からポルトガルの観光に興味を持っていて、ポルトガルについて言葉と文化を詳しく知りたいと思っていた。ただ日本の大学に入っていざポルトガル語を学習していると、日本との関わりが強いブラジルのポルトガル語やブラジルの政治、文化についての授業が多く、ポルトガルについての知識を思うように広げられなかった。また、一般的に日本で暮らしていて、日本とポルトガルの関わりを実感することはほぼなく、またポルトガルでも日本のことはそれほど多く知られていない。そこで、ポルトガルについて現地で言葉と文化を詳しく学習すると同時に、ポルトガルでも日本のことを多く伝えたいと考えるようになりポルトガルへの留学を決意した。

<ポルトガル以外の他国について、および日本の発信>

日本の大学入学後にポルトガル語はアフリカ諸国でも公用語として話されていることを知り、アフリカ大陸のポルトガル語圏にも興味を持つようになった。しかし、アフリカのポルトガル語圏については大学のポルトガル語の授業で扱われることは全くなく、どのような文化があるのかを知ることもなかった。一昨年(2022年)の夏に私的にリスボンを訪れた際に、街にヨーロッパ系、ラテン系、アフリカ系など様々なルーツを持つ人たちが暮らしていることに気がつき、この環境で勉強すれば世界に広がるポルトガル語圏の国について知ることができるのではないかと感じ、世界のポルトガル語圏から留学生が集まるとされるリスボン大学への留学を決めた。さらに、留学生に日本の文化や日本の社会についても伝えて興味を持ってもらい、自身も改めて外国の視点から日本を客観的に見られるようにしたいと考えた。

(1) 留学の成果

※留学計画にそくして留学/研修でどのような成果を得たか。

<ポルトガル全般に関する知識の増加について>

ポルトガルと日本の相互理解については、大学でポルトガルの歴史や文化の授業を受けることで日本での学習よりも深く詳しくポルトガルに関する知識を獲得することができた。休日に行った多数の地方の街の訪問や博物館訪問など、座学ではない部分でのポルトガルの知識の獲得も大きな成果だと感じる。

<日本の発信>

全てのクラスで自分がアジア圏からの唯一の留学生だったので、授業内のプレゼンテーションでは教授から「授業テーマに沿った日本やアジアについての発表をして欲しい(例: <観光と余暇の歴史>の授業で日本の観光史についてのプレゼンを頼まれる)」と依頼を受けることもあり、日本についての発信をする機会がありアカデミックな相互理解を深めることが出来た。

<ポルトガル以外の他国について>

ポルトガル語圏と日本に相互理解を深めるという計画を設定したが、ポルトガル以外のアフリカなどのポルトガル語圏からの学生が少なく、それ以上にスペインやフランス、イタリアなどのヨーロッパ圏からの留学生が圧倒的に多かった。そのため、ポルトガルを含むヨーロッパ圏と日本の相互理解を深めるという成果がメインになった。ヨーロッパ各国と日本については例えば、滞在先のシェアハウスで食事を作っているときお互いの国の料理や祝日の過ごし方、テレビ番組など趣味について話したり、簡単な日本語を教える機会などがあり、主に文化面で相互理解が深まった。

(2) 自己の成長

※留学/研修を通じて身についた力や留学/研修で得た学びとその理由・背景

留学を通じて「足りない部分をほかの部分で補って合計でプラスにする」という力を身につけた。例えば2学期の「観光と余暇の歴史」の授業で日本の観光史についてのプレゼンとそれに関連したレポート作成を課された時には、自分のポルトガル語が他の学生よりも劣っていたのでそこを補うため、プレゼンとレポートの内容を複数の参考文献を使いよく調べ、パワーポイントの作成を工夫するなど他の部分で努力を重ねた。その結果、教授から発表とレポートの両方で高評価をえることができ、周囲と比較して不足していたポルトガル語の学術的な運用の部分を、他の部分でカバーすることに成功した。この課題を通じて身につけた「足りない部分をほかの部分で補って合計でプラスにする」という力は期末テストの勉強などほかの部分でも応用することができた。

また、授業以外の面ではシェアハウスをしていたほかの学生は、日本を含む自分の出身国以外の文化などに興味がある人が多く、みな積極的にお互いの国について質問をしていたことが多くあった。そのことから、自分も外国のことを知るためには受け身ではなく積極的な姿勢が大事だと感じた。

(3) 留学経験・留学の成果の活用

※留学/研修の成果・経験を将来に渡りどのように活用するか。今後の展望。

留学ではポルトガルの文化や歴史など幅広くポルトガルに関する知識を獲得することができた。日本の大学ではどうしてもブラジルに関連する授業が多くなってしまいう中で、ポルトガルに関する卒業論文を書きたいと思っていた自分にとって、留学中の1年間に獲得できた学業に関する知識は今後の日本の大学での研究に役に立つと思う。具体的に卒業論文では、留学中に旅行で訪れたポルトガル領アソーレス諸島に関して、その島民と北米大陸東海岸の交流に関する研究などを考えている。さらに、留学を終えて自身のポルトガル語の力も伸びたので、その力を落とさないように日本でも引き続き勉強を続け、大学を卒業するまでに再度ポルトガルを訪れたい。

また、(2)の自己の成長でも記述したとおり、授業を通じた成長とシェアハウスのほかの留学生から得たヒントを今後の学業や就活、国際交流に生かしていきたい。

受入機関の名称
Universidade de Lisboa / リスボン大学
受入機関の所在地
Cidade Universitária, Alameda da Universidade, 1649-004 Lisboa
受入機関の概要及び特徴
リスボン大学はポルトガルの首都のリスボンに位置する国立大学で、同国では2番目に古い歴史を持つ。ヨーロッパからの学生を中心に世界中から留学生を受け入れている。文学部や法学部、薬学部など多くの学部のキャンパスが1カ所にあるため、様々な学生と交流できる。
受入機関の様子
平日は多くの学生で朝早くから夕方まで賑わっている。キャンパスの建物は古いので冷暖房は無く、断水により全学休講になった時もあった。しかし建物は近いうちに建て替えられる計画があるようだった。図書館や学食などの施設も充実していて、大学の回りにも博物館などが多くあり学生は入場料に割引が適用された。留学生に関してはヨーロッパからの学生がほとんどで、アジア圏の学生はほぼいなかった。

受入機関の様子が分かる写真



左上：文学部の建物 右上：建物内部

左下：学食

すべて文学部の施設。ただし建物が古く断水が発生し授業が休講になることもあった。近いうちに新校舎に建て替えられる予定である。

5. 留学授業・生活について

【公表用】

(1) 授業履歴 (※受講した授業のシラバス等授業内容が分かるもの及び成績表のコピー・提出したレポートを添付すること。)

受講した授業科目名	受講期間	週当たり 時間数	単位数	授業の内容 及び授業から得られたこと
1 学期				
O Japão Passado e Presente (日本 過去と現在)	2023/9/11～2023/12/15	90 分 × 2	6	日本史の授業。授業内容は高校の日本史以上で、ポルトガル語で行われるので理解は簡単では無いが、授業後の復習で内容を詳しく理解している。
Inglês B1.2 (英語 B1.1)	2023/9/11～2023/12/15	90 分 × 2	6	受講した授業の中で唯一英語で行われた英語を勉強する授業。語学レベルでクラス分けされ、留学生も受講していてブラジル人と友達になった。
História da Cultura Portuguesa (ポルトガル文化史)	2023/9/11～2023/12/15	90 分 × 2	0(聴講)	「文化史」という名前が付いているが、ただ文化を紹介するのではなく文化の構造や背景など細かい知識と専門用語が使われ、かなり難しい。
Japonês 3 (日本語 3)	2023/9/11～2023/12/15	90 分 × 2	0(聴講)	ポルトガル人向けの日本語中級クラス。日本人の教師によって行われる。日本語の動詞の活用について詳しく教えられている。
Portuguese Evening Course (ポルトガル語コース)	2023/9/26～2024/1/23	90 分 × 2	学部の授業とは別	留学生と外国人向けのポルトガル語の授業。ポルトガル人の先生がポルトガル語使って文法や読み取り、リスニングを指導して下さる。
2 学期				
História de Lisboa (リスボンの歴史)	2024/1/22～2024/5/10	90 分 × 2	6	リスボンの歴史について 5 人の先生が授業ごとに交代しながら講義して下さる。
História do Lazer e do Turismo (休暇と観光の歴史)	2024/1/22～2024/5/10	90 分 × 2	6	ポルトガルを中心に時代ごとの国際情勢と関連図家ながら観光の歴史を見ている。
A África no Mundo – Relações Internacionais (世界におけるアフリカ – 国際関係)	2024/1/22～2024/5/10	90 分 × 2	6	アフリカ大陸におけるヨーロッパやアメリカ、アジアの影響力についての授業。アフリカからの留学生やアフリカにルーツを持つ学生も多く参加している。
História Moderna de Portugal (ポルトガル近代史)	2024/1/22～2024/5/10	90 分 × 2	0(聴講)	ポルトガルの近代史の授業。

(2) 参加した行事／イベントなど (※パンフレットなど内容が分かる資料があればコピーを添付のこと。)

行事／イベント名	日時	主催者	行事／イベントの内容 及び得られたこと
留学生向けオリエンテーション	2023/09/07	リスボン大学	初めて大学に行き授業や履修等の説明を受けた。イタリア人の友達ができた。
リスボン日本語補習校でのボランティア	2023/10/14 以降の毎週土曜日	リスボン日本語補習校 (https://lisbon-jschool.wixsite.com/lisbon-jschool/blank-12)	リスボンおよび近郊都市に在住の日本人の子どもを対象とした日本語学校でボランティア活動をしている。毎週土曜日の午前が開校される。多様な経歴を持つ日本人の子どもや先生がいらっしやる。
リスボン大学主催のクリスマスパーティー	2023/12/12	リスボン大学	リスボン大学が留学生向けに開催したクリスマスパーティーに参加。今まで会ったことがなかった日本からの留学生に会った。
オリエンテ美術館企画展 「Japão: Festas e Rituais」	2024/01/19 訪問	オリエンテ美術館 Fundação Oriente - Japan: Festivities and Rites (foriente.pt)	リスボンのオリエンテ美術館という美術館で日本に古くからある慣習・祭り・伝統をテーマにした企画展が開催され、そこを訪れた。
飛鳥Ⅱツアーガイド ボランティア	2024/05/12	リスボン中心部	日本からのクルーズ船がリスボンに入港した時に、日本語補習校の先生方と一緒にリスボンのガイドとして船のお客さんに観光情報の提供を行った。

(3) 留学で得られた学位や資格等 (※証明書などがあればコピーを添付のこと。)

聴講した授業以外の学部の授業の単位を取得した。成績は20点満点で10点以上(E評価)以上で単位獲得。

Unidade Curricular	EECC	Nota	Peso	Tipo	Aprovação	Correspondência	Conclusão
78894 - O Japão: Passado e Presente	B	14	6	Inscrição	1 Sem. 2023/2024	-	13-12-2023
11915 - Inglês B2.1	C	13	6	Inscrição	1 Sem. 2023/2024	-	02-01-2024
920066 - História de Lisboa	E	10	6	Inscrição	2 Sem. 2023/2024	-	16-05-2024
78964 - História do Lazer e do Turismo	A	18	6	Inscrição	2 Sem. 2023/2024	-	17-05-2024
51271 - A África no Mundo - Relações Internacionais	E	10	6	Inscrição	2 Sem. 2023/2024	-	27-05-2024

※宿泊先での生活や特に注意したこと

<滞在先>

現地では学生向けのシェアハウスに滞在していた。5階建ての建物で全体で20人ほどが住んでいて、キッチンとリビングは地上階にあり共用。トイレバスは基本的には2人で1つを使っていた。自分以外はみなポルトガル人を含むスペインやフランスなどのヨーロッパ圏の国の出身だったため、日本のみならずアジアについての質問をされる機会も多かった。ほぼみな自炊をしていたが、時々集合して外食をするときがあったので一緒について行った。ヨーロッパからの学生は半年間の留学をしている人も多く、1学期が終わったタイミングで半数ほどが帰国してしまった(クリスマス期間は自分以外の全員が一時帰国を含めて母国に帰っていた)が2学期からはまた新しい学生も入居して面白かった。

日常生活で危険な目に遭うことはなかった。ただ、一度シェアハウスの玄関がしっかり施錠されておらず未明にホームレスが勝手に入ってきて階段の踊り場で寝ていたことがあった。幸い特に何も起こらずにそのホームレスは家から追い出された。

<1週間の流れ>

現地での生活は、平日は学校に行って放課後は食料品の買い物や授業の復習を行い、学校の無い日と日曜日は他の国に旅行に行ったり、晴れている日にはポルトガル国内を旅行していた。とにかく積極的に外出したいタイプだったので一日を家で過ごす日は雨が降っている日だけだった。土曜日はリスボンにある日本語補習校でボランティアを行っていた。この補習校は毎週土曜日に日本人の子供に日本式の教育(国語と算数)を行う機関(幼稚部～中学部)で、1学期にリスボン大学で日本語の授業を担当していた先生から紹介をいただきボランティアをした。日本人のご家族も補習校の運営に携わっていらっやだったので、現地の生活で小さな質問があるときには日本人のご家族に質問をして大変頼りになった。

現地の生活は治安面では特に不安になることはなかったが、調理の衛生面は気を使って生ものはほとんど食べなかった。また、体調を崩したくは無かったのでなるべく一定の生活リズムを保とうとした。

6. 留学を考えている人へのメッセージ

留学をしてよかったこと、留学前にやっておけばよかったこと、留学を勧める理由/進めない理由など

<よかったこと>

留学をしてよかったことは自分の視野を広げられたことだと思う。日本の大学ではポルトガル語に関連した授業はブラジルの政治や文化などが多く、ポルトガルに関する講義は少なかったが、リスボン大学ではポルトガルに関する授業が多く開講されていたので自分の興味に合わせて好きな授業を選ぶことが出来た。留学に行く間間違いなく知識の量は増えるので少しでも海外に興味がある人や行きたい国がある人は、その理由が何であれ一度必ずその国を訪れてみると良いと思う。

<やっておくべきこと>

特に留学を考えている人はある程度、その国で何を学びたいのかを明確にしておくといいかもしれない。留学の場合は現地の学校でその国の言葉で授業を受けるので日本で受ける授業よりも当然難易度が上がるし、授業内容の理解に時間を要することになる。そのため、何を学びたいかが不明瞭なまま授業を受けても挫折する可能性が高くなる。逆に、あらかじめ学びたいものが明確だとそれに関連する授業を選ぶことができ、例えばその授業の内容が難しい物であっても、興味のある授業内容なので授業後の復習などの自習に対するやる気は生まれると思う。その結果、自分で授業をより理解しようと行動して知識量を増やすことができるだろう。現地で自分で努力して得た知識は特に記憶に残りやすいと思うし、これこそ留学の学習面の醍醐味だと思うので、学びたいものをあらかじめ留学前に定めておくことは大事だと思う。

また、留学前の準備としてはある程度その国の方言を勉強しておくが良いと思う。これは、例えばポルトガルの場合はポルトガルのポルトガル語の語彙と文法、発音をあらかじめ頭に入れておくということである。ポルトガル人は当然ポルトガルのポルトガル語を話し、講義もポルトガルのポルトガル語で行われるのでその語彙や文法、発音について知っておくと話を理解しやすくなる。彼らは他国(ブラジルなど)のポルトガル語を聞いて理解することは出来るが、話すときに使うことはまずないので、スムーズに話の内容を理解するためにはやはり方言の勉強は大事だと感じる。これは英語圏でも同じだと思う。例えばイギリスに留学したいのならば、イギリス英語の語彙や発音を勉強しておくことが留学後に大いに自身の助けになるだろう。(イギリスには行ったことがないので断言はできないがそう予想できる)

<留学を勧める理由>

留学をしてみたいと思う人はぜひするべきだと思う。大変なこともあるかもしれないがそれ以上の学びが絶対にあると思う。ある程度の期間国外に身を置いて自分で生活することで旅行とは異なる現地の生活を体験でき、その国や地域についてのより深い理解に繋がると思う。また、日本のよさや魅力を客観的に再発見することもできるだろう。

写真	説明
	<p>オリエンテーションで仲良くなったイタリア人の友達と彼の友達のルーマニア人とポルトガル南部の世界遺産の街 Évora に日帰りで行ったときの写真。(2023年10月)</p>
	<p>誕生日を迎えたときに大学の友達と一緒に近所の韓国料理レストランに行って祝ってもらったときの写真。異国の地で迎える初めての誕生日だったがとても良い思い出になった。焼き肉を注文したが、友達2人は自分で焼くスタイルの焼き肉は初めてだったので自分がいろいろやり方を教えたところ、とても楽しんでくれた。(2023年11月)</p>
	<p>チャンピオンズリーグというサッカーの試合を見に行った時の写真。ヨーロッパ各国の強豪チームが出場するリーグで、リスボンの地元のチームもポルトガル代表として選出されていたので、近所のスタジアムで試合があったときに見に行った。相手は強豪のイタリアのチームで3-3の引き分けだった。海外のサッカー観戦は初めてだったが、サッカーはポルトガルで最も盛んなスポーツでファンの盛り上がり方が印象的だった。(2023年11月)</p>
	<p>昨年の9月～今年の1月まで家(シェアハウス)にいた友達が5月に遊びに来たときの写真。みんなで家の近くのエスケープルーム(謎解き脱出ゲーム)に遊びに行ったりレストランで食事したり、ピザをテイクアウトして近くの公園で食べ、思ひ出話に花が咲いた。(2024年5月)</p>

8. 留学に関連した費用

【公表用】

費用調達

調達先	摘要	金額
在籍校奨学金	日本奨学支援機構(JASSO)留学助成金 月 8 万円×9 ヶ月+渡航支援金 13 万円	850000 円
在籍校以外の奨学金		円
現地インターン給与		円
小山台教育財団	海外チャレンジ支援	700000 円
日本でのアルバイト代		450000 円
合計		2000000 円

支出経費

費目	予算額	実績	研修参加費に含まれる 場合は、●を付ける	摘要
「研修参加費」 ※在籍大学・主催者に一 括で支払うもの	535800 円		←往復航空運賃	
			←宿泊費	
			←食費	
		●	←その他	日本の大学に払う授業料。リスボン大学の授業料は免除。

以下の欄には、上記「研修参加費」に含まれる予算額は記載しない。(二重)

費目	予算	実績	摘要／差異の内容	
往復航空運賃	300000 円	340000 円	帰国便は受託手荷物許容量を追加購入した。	
学 費	在籍大学授業料	0 円	0 円	交換留学のためリスボン大学の授業料は免除。
	現地学校等授業料	0 円	68460 円	1学期の Portuguese Evening Course の授業料:420€ これは学部の授業とは別のため追加料金が発生。
	その他	0 円	0 円	
現 地 滞 在 費	家賃/宿泊費	707850 円	1026900 円	700€×9 ヶ月分(9 月～翌年 5 月)。予算は月額 550€を想定していたが、550€では希望の条件に一致しなかった。
	食費	511225 円	440100 円	300€×9 ヶ月分(9 月～翌年 5 月)
	交通費	62920 円	26080 円	40€×4 ヶ月分(9 月～12 月)。2024 年からリスボン大都市圏内全公共交通機関が有効の通学定期券が無料になった。
		円	円	
そ の 他	旅費など	450000 円	600000 円	旅行中の宿泊費、交通費、食費等を含む。 長期休みや 5 月中旬～帰国までの旅費など。
		円	円	
合計	2567795 円	2968880 円	現地通貨レ ート	163 円 (留学期間中のおよその平均レート)
	1 ユーロ=143 円 (2023 年 5 月)	1 ユーロ= 163 円		通貨単位名

※合計欄には「研修参加費」を含む費用の総額を記入のこと。

① 留学での収穫

ポルトガル語圏と日本の相互理解を深めるというテーマのうち、まずくポルトガル全般に関する知識の増加について<>は、この留学の最大の収穫と言えると思う。そもそもリスボンに留学した一番大きな理由は、日本ではあまり学習する機会が少ないポルトガルについてのあらゆる分野の知識を深め、一国の首都に留学することで国内の文化や風土を最も深く感じることができると考えたからである。

留学を通じて、リスボン大学で受講したポルトガルの歴史や文化の授業はもちろん、学校の授業で扱ったリスボンの歴史的な史跡や跡地を実際に放課後に訪れたり、学校の授業では言及はされなかったものの個人的に興味を持った博物館への訪問により、積極的にポルトガルに関する知識を高めた。例えば Museu Nacional do Azulejo というポルトガルのタイルの博物館を訪問して、タイルの歴史に関連した中世のポルトガルとアジア、アフリカ圏のつながりを学んだり、また、リスボンにあるローマ人が建設した水道橋の博物館を訪問してリスボンにおけるローマ人の生活の様子を学習するなどした。

このような旅行では訪れないような現地の小さな博物館への訪問や、授業で言及されたからこそ訪れた場所で得た知識は留学することによってこそ得られるものであり、特にリスボンは史跡や博物館が多いので留学した甲斐があったと思う。さらに、リスボンのみならず地方都市への訪問も積極的に行いその地域に根ざした伝統工芸や食文化、経済など様々な要素から多面的にポルトガルという国について実際に訪れることによって理解を深めることができた。

ポルトガルから帰国をした今、「もしこの1年間を日本やポルトガル以外の国で過ごしていたら、間違いなく今の自分ほどポルトガルについて詳しくなっていなかったと思うし、今は日本で一番ポルトガルについて知っている学生かもしれない」と思えるほどにこの1年で多くのことを吸収できたので、<ポルトガル全般に関する知識の増加について>は最大の収穫だろう。



リスボンの水道橋。郊外から水を運ぶために作られ、改修されているが歴史ある遺産になっている。



ポルトガル第3の都市のブラガに12月に行ったときの写真。ここに留学している友達が案内してくれた。



Vila Nova de Foz Côa というポルトガルの村に行った。世界遺産になっている旧石器時代の岩絵を見に行き、ポーランド人の夫婦に会った。その後6月にポーランドに遊びに行った際にご自宅に招待いただいた。



授業では習わなかったが食についても詳しくなった。エッグタルト(写真)や干し鱈の料理など伝統的なものが多い。

<ポルトガル以外の他国>と<日本の発信>に関しては、ポルトガルのみならず世界中で日本に興味を持っている人がかなり多いということを感じた。実際に訪れたことがある人は多くは無いが、日本食とアニメを通じて日本に関心がある人は多く、「日本

ではどうなのか」「OO は日本語で何というのか」「日本食を作ってよ」「XX というアニメは見たことがあるか」など様々な質問を日々受けた。そのため、自分も日本の食事や文化について再度見つけ直し、その良さに気づかされることが多かった。日本の発信をしつつ、自分も日本を客観的に眺めることができたのは留学して各国の留学生と関わったからこそ得られた経験だと感じた。また、日本について質問されたときに「逆にあなたの国ではどうなのか」と質問をすることで相手の国についても知ることができ、ヨーロッパ圏を中心に相互理解がかまったと感じる。さらに、ポルトガルを含むヨーロッパは格安航空網が非常に発展していて国外に安く旅行に行けたので実際に各国の空気感を肌で感じることができ、リスボンに戻った後に旅行先の国の出身の友達にその国の感想を伝えて、外国人から見たお互いの国の印象を話し合う機会もあった。特にシェアハウスにはポルトガル、スペイン、フランス、ベルギー、イギリス、ドイツ、イタリアなどいろんな国から学生が来ていて、留学前はこんなにも多様な国から人が集まっているとは思っていなかった。



10月にフランスのリヨンに行った。シェアハウスにこの近く出身の友達があったので、観光に関する情報を教えてもらった。

11月にベルギーに行った。ヨーロッパの航空券はうまく探せばかなり安いのでお得に他国に行ける。

② 留学を終えて伝えたいこと

今回の留学を通じて最も強く実感したことは「どんなきっかけでもいいので外国への興味を持つことの重要性」である。

そもそも私が日本の大学でポルトガル語を学習しようと思ったきっかけは、自分が高校生の時に「海外に住みたい」と思っていて、さらにポルトガルについて紹介していた日本のテレビを見て興味を持ちポルトガルについて調べて住みたいと思ったからである。その漠然とした「住みたい」という願いを留学という形で叶えたいと思い、大学入学後の2年間でポルトガル語を習得した。その中でポルトガルの文化や歴史、風土についての興味も高まり、留学では実際にリスボン大学の授業や現地での生活、旅行を通じてポルトガルについての知識はもちろん、ヨーロッパ圏を中心に他国の知識についても広く増やすことができた。

偶然にもテレビを見て「ポルトガルに住みたい」という漠然とした思いを持ったことが留学に繋がり、結果的に幅広い知識の獲得へとつながったのである。

また、留学中にも8月(2023年)に「ポルトガルの島嶼部の生活と本土の違いを見たい」というきっかけから、ポルトガル領アソーレス諸島(Açores)のテルセイラ島(Terceira)とサンミゲル島(São Miguel)を訪問し、島の博物館やツアーで島の歴史や文化などの知識を勉強した。さらにその訪問の中で、ピコ島(Pico)という別のアソーレス諸島の特産である「ワイン生産」に興味を持つようになり、7月(2024年)にピコ島を含むほかののアソーレス諸島を訪問し、ワイン生産地と博物館を訪れた。そこで新たに、ワイン生産の歴史に関連したアソーレス諸島と北米大陸東海岸の人の往来の歴史¹を学び、アメリカのボストン近郊やカナダの東海岸にアソーレス諸島のコミュニティが形成されていることを知った。留学から帰国した今、「北米大陸のアソーレス諸島のコミュニティの現状を詳しく知りたい」という興味から、ボストンに行くことを考えている。

¹ アソーレス諸島と北米大陸東海岸との間の人の往来の歴史は主に19世紀の後半から花開いた。当時のアメリカ合衆国は大西洋横断航路を利用してヨーロッパとの貿易を行っており、その船の燃料に鯨油を使用していた。アソーレス諸島は大西洋を横断するアメリカ船にとって重要な給油地点であり、諸島ではアメリカ人を中心に捕鯨産業が開花し、島民も捕鯨船に乗ることがあった。20世紀の初頭にアソーレス諸島のワイン生産が不況に陥ると、ワイン産業に従事していた島民が捕鯨産業に転換する例が多く見られた。島民の中にはアメリカでの新しい豊かな生活を期待してアメリカの船に乗り、ほかの島民もアメリカンドリームを掴もうと渡米し、北米大陸東海岸を中心にアソーレス諸島のコミュニティが誕生した。特にボストン近郊のFall RiverとNew Bedfordには大きなコミュニティが形成され、現在でもアソーレス諸島の航空会社が島からボストンに直行便を運航するほどのつながりがある。アソーレスの島民による捕鯨産業はその後、鯨油価格が上昇した第二次世界大戦期に最盛期を迎え1981年に幕を閉じた。

ももとは「ポルトガルの島嶼部の生活と本土の違いを見てみたい」という興味からアソーレス諸島の中の2島を訪れたが、これらの島での経験がピコ島の「ワイン生産」への興味に繋がり、さらにはアメリカのボストン近郊の「北米大陸のアソーレス諸島のコミュニティの現状」に対する興味にまで発展した。もし今後ボストンに行く機会があれば、そこでまた新たな興味や好奇心が生まれることだろう。

ここではポルトガル語の学習のきっかけとアソーレス諸島訪問のきっかけの2例を挙げたが、このように、自分の中の小さな興味やきっかけから外国を訪れ、その国で多様な体験をした結果として当初の興味とは別のことにも関心を持つようになり、自分の知識や視野がさらに広がるということは多いと感じる。**外国への小さな興味を大切に、実際に気になっている国に行く計画を立てて訪れることは非常に重要だと思う。**実際に訪れるとなると一気にハードルが上がるように感じるかもしれないが、日程や予算などをあれこれ少しずつ考えて計画を立てると、意外と自分の思っているほど外国に行くハードルは高くは無いと感じることも多い。(もし計画の時点で、やっぱり本当に難しそうだという結果になったらそれは断念しても構わないが、ただ「ハードルが高そうだから」という思い込みだけで大して調べず、訪問を断念してしまうのはあまりにも勿体ない。)そして、実際に小さな興味を持っている国を訪れると思いがけず、疑問や新たな興味生まれ新たな学びに繋がるだろう。もちろん最初から何か立派な理由があって外国を訪問するのであれば大変素晴らしいことではあるが、**始めのきっかけとなる興味はどんなことでもよく、その国を訪れる一歩を踏み出すと自分の視野が広がる。**これこそ私が留学を通して強く感じた自身の学びである。いきなり外国に留学することにハードルの高さを感じたらまずは短期間の旅行でもいいので、ぜひ気になる国を訪れて自分の興味の分野と視野を広げてみてください！



アソーレス諸島にある捕鯨博物館。右の舟は捕鯨に使われた伝統的な舟。(左:フローレス島。右:ピコ島)



ピコ島のワイン畑の風景。ピコ島は火山島であり、海風からブドウの苗を守るために火山の石を使って石垣を作り、畑を囲む伝統的な農法が伝承されている。火山の土壌は植物の栽培に適していないが、古くから多大な努力のもと開拓し世界遺産になった。



<最後に>

今持っている外国への疑問や興味を大切に、そこを訪れてみてください。必ず新たな発見があるはずです。

←リスボンの中心地であるコメルシオ広場の夕焼け(自分のお気に入りの場所)

上樂光汰朗

報告会報告書、プログラム修了報告書



1

私について

自己紹介

名前：上樂 光汰朗
 班活：水泳班
小山台高等学校72期生
 ↓
防衛大学校 人文学科
 >パイロット試験になりたい
 >視力検査で引っかかる...>退校
 ↓
埼玉大学 経済学部
 >経営イノベーション学科

2

留学の動機

1. 日本の文化は
どのようにして
伝えられているのか？
2. 日本の文化を
広める方法とは？
3. 日本人と外国人の
交流の場を増やすこと
はできるのか？

3

テーマ

日本の文化を現地で学び、すばらしさをより世界に広める
～異文化交流の場の増加と外国人に対して寛容な世の中を～

4

このテーマを選んだ理由

01

日本文化が間違っ
て教えられていること
があるのでは？

02

何に興味をもって日
本文化や日本語を
学んだのか気になる
ため。

03

日本では移民に対し
て厳しい。

>どうすればより寛
容になるのか？

5

なぜイタリア？

- イタリアのトリノ大学に、有名な日本語の教授が
いるから。(Coci先生、Mole先生、Suzuki先生)

>Coci先生:安部公房『密会』、大江健三郎の『宙返り』

- 移民問題や、経済的な伸び率が日本と似てい
るから。

>移民の教育制度がない点、仕事につきにくい
点



6

↓アニメ・漫画イベント ↓友人の研究を手伝う

現地でやったこと

- 1.日本語学部の授業に参加
- 2.道場に見学に行く
- 3.アンケート活動(友人、イベント)
- 4.日本同好会を設立。>ご飯会や、書道などの日本文化体験を企画


↑クリスマスパーティー ↑日本文化に触れるイベント

7

結果

8

↓喫茶店で日本の茶菓子体験



01. 日本文化が間違ってて教えられていることがあるのでは？

→ 日本語学部の授業に参加 → 日本同好会のイベントを通して

授業では
そんなことない
> 小・中学校レベルの
歴史が教えられている。

一方で...
一般人の間では、
アジアは一括りにされ
る。

↑年越しミラノ、治安悪し...

9

02. 何に興味をもって日
本文化や日本語を学ん
だのか？

→ アンケート、日本同好会の活動を通して

anime, manga e cinemat	Dragon Quest
Cultura pop, anime, manga	La sua filosofia
Intrattenimento giapponese	mi compagno di piso
I ragazzi giapponesi che ho conosciuto ad unito (ciao	I miei amichetti che lo studiano
gli anime e i samurai	Anime
Aver conosciuto Kotaro kun	Manga e arte
La letteratura giapponese	La Nintendo
Multimedial contents	la lingua giapponese
日本の歴史とアニメ	La cultura (letteratura, storia, arte...)

仮説
・漫画、アニメなどのサブカル
チャー

結果
・漫画、アニメ、**ゲーム**
・日本**文学**、**歴史** (昭和以降～)
・日本の**番組**
・音楽、日本語の**響き**

10

03. どうすればより移民に対して寛容になるのか？

イタリア生活での気付きも踏まえて考察

11

イタリア生活での気付き

01

ジプシー(物乞い)が多い
 >不法移民が多いから。
 >ギャングが身分証を取り上げて、職に就けない。

02

右派が台頭してきている
 >不法移民増加による治安の悪化。
 >EU内でイタリアにばかり移民が流れている。(地理的要因)

ローマのジプシー



メローニ首相



12

イタリア生活での気づき

仮説

イタリアでは、国民も制度も移民に対して寛容。

結果

政治・国民感情
 > 移民に対して厳しく
 なってきている

13

問題点は何か？



ローマの地下鉄ですられたとき

1. 制度がしっかりと追いついていない点。
 > 教育制度など
2. 国民の声を聴いていない。
3. 刑事制度が機能していない。
 > スリを逮捕せずにその場で釈放など。

14

以上を踏まえての結論

1. 教育制度を整える。

> 日本語、日本語の教育制度拡充

2. 問題が起きたときの対処方法をしっかりと行う。

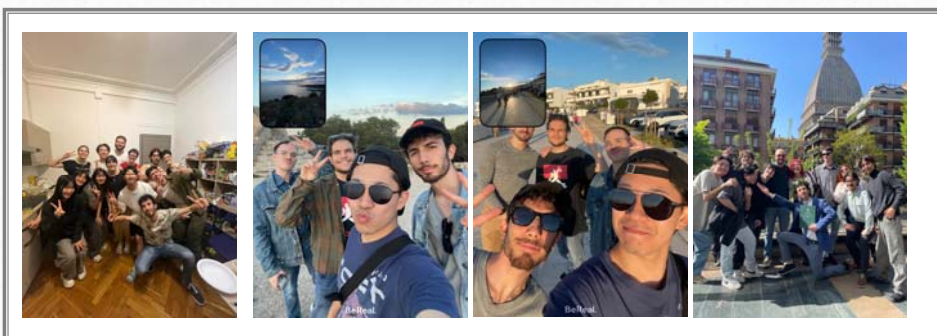
> 法で裁くだけでなく、再発防止のための策を講じる。



国民の理解と、より寛容な態度へとつながる。



15



最後に

小山台財団の皆さまご支援ありがとうございました。

16

ご清聴ありがとうございました。

17

費用に関して

往復航空費・保険など

30万

家賃

90万

食費

50万

旅費

40万

雑費

30万

合計

240万

小山台奨学金

70万

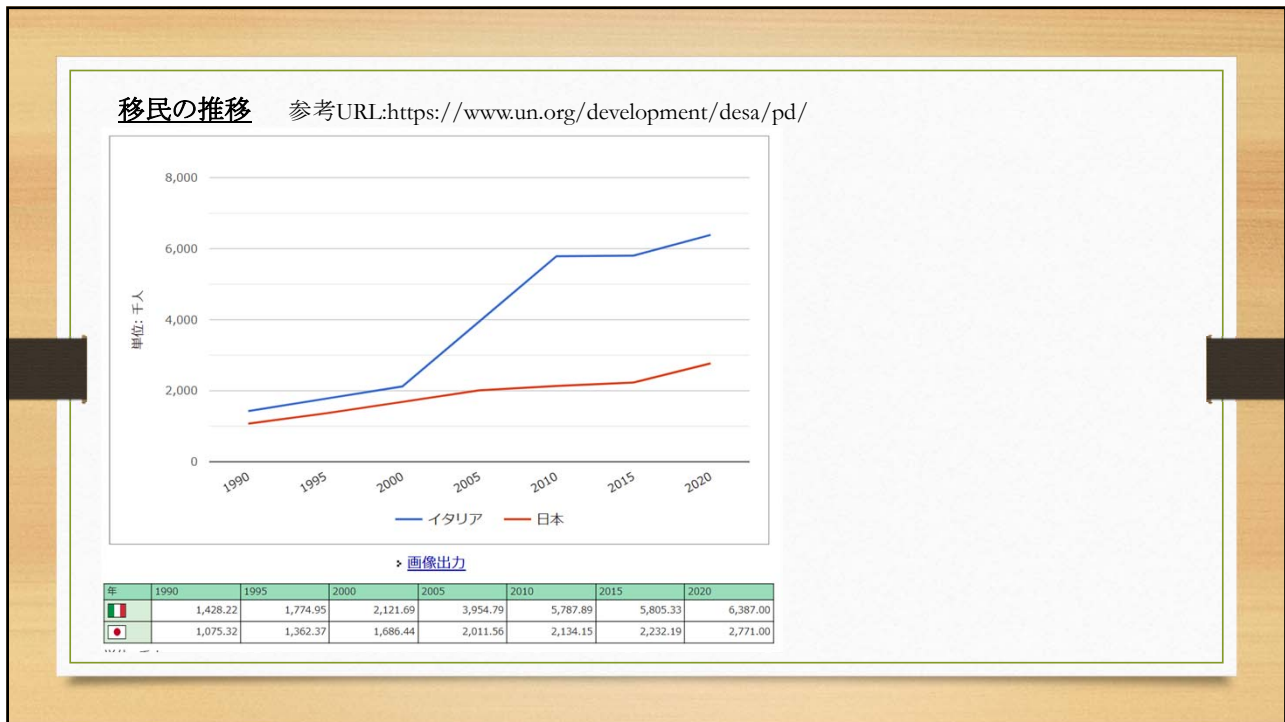
JASSO奨学金

100万

差額

-70万

18



海外チャレンジ支援 プログラム修了報告書

【公表用】

ふりがな 氏名	じょうらく こうたろう 上樂光汰朗	提出日 報告の 対象期間	2024 年 9月 30日 2023年 9月 22日～ 2024年 6月 7日
------------	----------------------	--------------------	---

(2)在籍校の情報(記入日時点)

学校名	埼玉大学	学部名	経済学部
ふりがな	さいたまだいがく	学年	3年
学科 専攻・コース 等	経済学部経済学科		

(3)卒業校

※当てはまるものに「●」

学校名	東京都立小山台高等学校	課程	● ←全日制	卒業年月 (西暦)	2020年
			←定時制		3 月

以下当てはまるものに「●」を入力

●	←在籍大学の協定・交換留学・学術交流	長期留学
	←在籍大学の研修プログラム	短期研修
	←在籍大学以外の国内機関主催・ 幹旋の留学プログラム	多様性 キャリア開 発
	主催者・幹旋機関/業者名	
	←その他・特定のプログラムには参加しない。	

以下当てはまるものすべてに「●」

	←(1)本留学・研修は、在籍大学卒業に必須な留学である(卒業必修要件、必修科目等)
●	←(2)本留学・研修は、在籍大学の単位として認定される留学である
	←(3)上記(1)、(2)のどちらでもない

留学期間	2023年 9月22日 ~ 2024年 6月 7日
留学国/地域	イタリア・トリノ

(1) 留学計画のテーマ

日本の文化を学び、そしてすばらしさを世界にもっと広める
 —異文化交流の場の増加と外国人に対して寛容な世の中を—

(2) 留学の内容(実践活動を含む)

留学計画の概要

日本文化が海外でどのような扱いをされているのかを学ぶ際に、私は授業を通して学ぶだけでなく、日本学科に通う学生やボランティア活動先にて各個人にアンケートや聞き込みを行うことで、アカデミックの面からだけでなく、個人間の面からもこの問いの答えを見つける努力をしていきたいと考えている。

また、日本文化の扱い及び日本の文化のすばらしさをより人々に広めることは、日本語学科の人々との交流も行い、またこちらで知り合った人たちにも実施することで広範囲で活動していきたいと思う。授業に関して、履修しようと思っている学部は、「外国語、文学、近代文化」、「マネージメント」、「文化、政治、社会」の三つである。その中で、現状履修したいと考えている講義は五つである。一つ目は、「日本文学」である。これは、私が知りたいと考えていた日本の文化が海外でどのように教えられているのかを学ぶことができるので、絶対に取りたいと考えている。次は、「近世の社会史」である。イタリアだけでなく、周辺の国の歴史の変遷についても取り扱う講義であるため、周辺諸国含め、イタリアがどのような歴史を辿ってきたのかをアカデミックの視点から学びたいと思う。そして、残るは「問題解決と批判的思考」、「組織管理」、「マーケティング」である。「問題解決と批判的思考」は、埼玉大学にはない授業なため、個人的な興味で履修したいと考えている。「組織管理」と「マネージメント」は、埼玉大学で類似の講義を履修しているので、日本とイタリア社会の違いについて暮らしではなく、ビジネスの面から比較できると思ったため、履修したいと考えている。

留学内容(実際に実施した活動)

1 履修した授業

日本文学や日本語の授業は4~5つほど履修した。またそれだけでなく、ヨーロッパで起こっている諸問題について幅広く学ぶ授業や、イタリア・スペインの中世について学ぶ歴史の授業、マーケティング(しかしこの授業は修士課程向けのため、何度が非常に高かつイタリアでのマーケティングについてはマーケティングの手法について学ぶ授業であったため途中で受講をやめた)の授業を履修した。

2 アンケート及び外部活動

帰国の際に約30人ほどに対してアンケートを実施した。アンケートの内容としては、日本への興味や日本語を学ぶ意欲が私が行って来た活動を通して、湧いたかどうかを問うものであった。また、授業などで出会った人にアンケートを取ったことを通して、日本のどのようなところにイタリア人が興味を持っているのか、そして日本語を学ぶことを通して将来どのようなことを行っていきたいのかを調査することができた。

外部活動としては、当初予定していた道場へのインターンがかなわなかったため、教授にお勧めしてもらった道場への見学や、自身で書道や茶道、日本食のパーティーなど日本を疑似体験できる空間を提供することを通して、日本語学科の人だけでなく、様々な人を招き、人種問わず多くの交流を図った。一点できなかったこととしては、現地の小学生未満の子たちとの交流を計れなかったことである。しかし、中学生の子たちとは学校へのプレゼンテーションということを通して交流することができた。

(3) 留学の動機と背景

留学をしようと考えた動機

高校時代

小山台高校で実施されていた短期留学に行く活動に参加したいと考えていたが、班活や生徒会などを言い訳にし参加しなかったことが心残りであった。その後、高校3年生のときに、たまたまで出会った大学の客人教授(国は中東)と英語で会話する経験を通して、海外に行ってみたいという欲が非常に高まる。

防衛大学校&浪人時代

防衛大学校にも一応制度として、アメリカや韓国など主要な国の士官学校に留学できる制度があったが、士官学校に行きたいという欲は全くなかった。退校後、目指すならば留学がしやすい(制度として整っているところ)大学を志す。

大学入学後

イギリスへの短期留学の際に、日本文化が海外でどのように扱われているのか、そして英語圏外の人たちが日本を学ぶ際の障壁などはどのようなものがあるのかを知りたいと思い、ドイツ、フランス、イタリアに志望する。

最終的には、友人がイタリアに多かったことやワインがとても好きだったという理由でイタリアに最終決定する。

】

(1) 留学の成果

※留学計画にそくして留学/研修でどのような成果を得たか。

まずは、授業を通してイタリア人がどのようなところで日本の習得に困難を感じているのかがわかった。まず障壁となり得るのは、ひらがな・カタカナ・漢字という文字の種類が多さである。特に漢字は音読みや訓読みなど、多種多様な読み方があるだけでなく、種類も非常に多くあるため、多くの日本語学習者はここで躓いてしまうということがわかった。そして次の鬼門になり得るのが、文法である。基本的にイタリアの日本語学習では(まあ言語学習全般だとは思いますが)、基礎的な文法を習得した後に、応用編に移っていくが、日本語は基礎で学んだ事項を応用では使わなくなる(例えば、話し言葉の際には「は」「が」をなくしたほうが自然など、etc.)ことが壁となる。ネイティブ特有の使いまわしなどは非常に習得が困難であるということがわかった。

最後に、日本人が使うオノマトペは彼らにとって全く想像ができないということがわかった。特に、雨や情景描写に対して使われるオノマトペに関しては、完全に暗記事項として対処されていた。教育編場では、教師がオノマトペと情景を結びつけるために解説を行っていたが、ネイティブの先生であればできていたが、イタリア人の先生だと間違っているケースがあったため、感覚を養う(言葉では説明されず、私たちの心・頭の中で無意識のうちに形成されている描写が音と共に脳内に浮かび上がってくること＝感覚)ことのむずかしさを体験した。

(2) 自己の成長

※留学/研修を通じて身についた力や留学/研修で得た学びとその理由・背景

力としては、行動しないと何も変えられないということを身をもって実感できたため、どのようなことであっても挑戦しようということができるようになったこと。また、全くわからない土地での生活を通して、自分自身への自信や、どんなところあってもお生きているという意志の力が身についた。この力はこれから先の人生において非常に有用であると考えている。

学びとしては、世の中には様々な人がおり、時には自分と全く逆の考え方をしている人がいるが、それは当たり前のことであり、敵ではなく、ただ考え方が違うただの人なのであるということだ。イタリアであった数々の経験を通してm¥、色々なことに寛容になったと思う。特に宗教や習慣に関しては非常に寛容になった。これは断言できるが、留学がなかったら絶対に寛容になることはなかった分野であると思うので、留学にあってよかったと思うことの一つである。

(3) 留学経験・留学の成果の活用

※留学/研修の成果・経験を将来に渡りどのように活用するか。今後の展望。

まずは、留学で得た経験や感じたことなどを、着飾ることなく多くの人に共有できるような活動を行っていこうと思う。具体的には、埼玉大学で所属している留学専用のコース(グローバルタレントプログラム)の後輩(具体的には、来年度以降に入学してくる大学一年生の後輩や、留学に悩んでいる大学二年生の後輩など)をサポートする役割があるため、ミーティングなどに積極的に参加し、経験を共有したいと思う。

また、大学の後輩という枠を超えて多くの人にも話していきたいと思う。これを読んでくれている小山台高校の後輩諸君だけでなく、大学見学に来ている高校生など、もっとよりたくさんの人に自身が体験してきた留学生生活を共有できれば、と思う。

次に、この経験を活かして活躍できるような職業がないか、視野に入れて就活を行っていこうと思う。個人的には、ワーキングホリデーなどに行くのも一つの手であると思うが、海外拠点などを構えている企業などに行くことで、将来的にイタリア語・ないしは英語を使いながら、世界で活躍できる人材になりたいと考えている。

人によっては留学をしながら就活を行わなければならない人もいると思われるが(年々就活の選考が、早期化されているため)、そのような人たちにも自分なりにサポートしていきたいと思う。

p.s.私にコンタクトを少しでも取りたいと思った方は、お手数ですが小山台財団を通してメールアドレスを入手していただければ、いつでも対応します。お待ちしております。

受入機関の名称
トリノ大学

受入機関の所在地

Via Giuseppe Verdi, 8, 10124 Torino TO, イタリア

受入機関の概要及び特徴

イタリア・トリノにある国立大学。
学生数も非常に多く、そのため各国からの留学生もかなり多い。

受入機関の様子

周辺はコーヒーが安価で飲める場所などが多く、学生の財布に非常に優しい店が多い。
治安もほかの地域と比較すると非常によく、基本的にはスリなどにも注意しなくよい。(バスの中は気を付けるべきだが。)

受入機関の様子が分かる写真



(1) 授業履歴 (※受講した授業のシラバス等授業内容が分かるもの及び成績表のコピー・提出したレポートを添付すること。)

受講した授業科目名	受講期間	週当たり時間数	単位数	授業の内容及び授業から得られたこと
イタリア語初級	2024.9—2024.12	4	5	イタリア語の文法と単語
日本文学	2024.9—2024.12	3	9	古代から平安までの変遷
日本語学	2024.9—2024.12	12	0	日本語のむずかしさ、そして豊かさ 翻訳のむずかしさ
ヨーロッパビジョン	2023.9—2023.12	不定期	5	ヨーロッパで起こっている諸問題について学ぶ

(2) 参加した行事／イベントなど (※パンフレットなど内容が分かる資料があればコピーを添付のこと。)

行事／イベント名	日時	主催者	行事／イベントの内容及び得られたこと
日本の小説家の講演イベント	12.6	トリノ大学	小説家 松田青子氏による講演会
ウェルカムミーティング	10.6	トリノ大学	留学生交流会
XMAS COMICS&GAMES 2023	12.16	Lingotto fiere	トリノ中心地で開催された漫画、ゲームのクリスマスマーケット
女性の権利のためのデモ	11.27	不明	彼氏に殺された女性の死をきっかけにしたデモ活動

※パンフレットなど内容が分かる資料があればコピーを添付のこと。

(4)現地での生活

※宿泊先での生活や特に注意したこと

一つだけ少し苦しかったことがあったので、共有します。実は今月友人が滞在していた寮の契約が切れてしまったので、私のところに転がり込んだのですが、たまにストレスをすごい感じるがありました。私の場合は、言葉も通じますし、言いたいことがある程度言える中だったので、大丈夫でしたが、条件が違えば楽しい留学生活が億劫なものになりかねないと思います。お金はとても大事ですが、心身の健康はそれ以上に大事だと思います。実際集団の暮らしが想像以上につらく、国に帰ってしまった子も周りにいます。これから留学にいかれる方は、シングルかダブルか非常に迷われると思いますが、自分の適性を見定めておくことをお勧めします。

困った経験というより、怖かった経験になるのですが、実は先日夜に友人の卒業を祝うパーティーがあったのですが、そこでマランザ(日本でいう不良)が急に乱入してきて、殴り合いのけんかがありました。殴るだけでなく、瓶などを遠距離で飛ばしてきて、車などにあたり破片が周囲に飛び散ったりしていました。幸いけがはなかったのですが、殴り合った人は流血していました。夜遊びをするなどというわけではありませんが、危険な地域はきちんと避けることをお勧めします。例えば友人と一緒にあっても危ないところは基本的には避けましょう。イタリアに限っての話ですが、警察は基本体に仕事をしませんし、助けてくれません。このときも通報から30分経ってから、ずっと現れて事情だけ聴いて彼らは帰っていきました。自分の身は自分で守らなければならないのが海外です。周りの友人からはマフィアの地域にうっかり入り、殺されかけた話なども聞きました。私自身もすりや差別による必要な嫌がらせなども何度か会いました。日本を出たら、そこは弱肉強食の無法地帯と思って行動してください。こっちは、夜の油断は死を意味します。

さて、怖い話はさておき、もう一つ共有したいことがあります。皆さんはご存じかはわかりませんが、基本的に海外に行く際には留学生は保険に入るのですが、その保険は歯の治療は基本的にカバーしていないことがほとんどです。実は先日顔がはれるくらいに歯茎が炎症を起こしてしまい、病院に行ったのですが、危うく手術になるところでした。(なったら多分4-8万飛びます)留学に行く前に、絶対に歯医者に行くことになってください。できれば、親知らずは抜きましょう、、、。あともう一つだけ付け加えるとすると、留学生を送りながら就活は結構きついです。なぜなら、時差などがあつたり、授業がおろそかになってしまったりするからです。そこら辺は計画的にやっていくことをお勧めします。

留学をしてよかったこと、留学前にやっておけばよかったこと、留学を勧める理由/進めない理由など

当たり前ですが、育ってきた環境が違えば、考え方も人への態度も、細かいところから大きなところまで、全く違います。日本という島国の人の考え方や、ヨーロッパの人の考えは何が違うのか、自分なりに答えを出してみると面白いと思います。

あと、個人的には政治の話などをぜひ留学生や現地の学生と討論してほしいです。考え方が全く違うので、刺激になると思います。色々なバックグラウンドを持った人たちと、一緒に暮らし、ご飯を食べ、お酒を飲むことができるのは、学生という何も責任を負う必要のないモラトリアム期間だからこそできることだと思います。ぜひ、やりたいことがない人や、やりたいけど迷ってるという人には、お勧めしたいです。


奨学金借りてでも行く価値はある、とこの留学を通し思いました。また、民間の奨学金もたくさんあります。ぜひ、そちらにもトライしてみてください(小山台財団の長期のやつは本当にいいですよ)。まずは、挑戦することが大事です。失敗したら、あとからリカバリーすればいいだけなのです。

あと個人的に思ったのは、一つ留学で絶対にやることを決めておくといいと思います。毎日英語の勉強とか、イタリア語で口説けるようになるまで勉強するとか、イタリアでの日本語の教育方法について研究するとか、インターンを通して現地の学生や子供、大人と交流するとか、自分なりに工夫と目標をもって取り組んでみてください。漠然と留学に行くよりは、何か一つこれだけは絶対に成し遂げるということを一つ持っていっただけで、留学生活は何倍にも色濃くなると思います。また、就活の時にもなぜ留学したのか、何に力を入れたかなどで話しやすくなると思います。

話は変わりますが、自分がこの留学を通して大変だと感じたことは、日本人同士のいざこざです。自分はラッキーだったので、基本的に巻き込まれることなく、また親友とも呼べる友達と出会えたのですが、他の人たちはなんやかんや大変そうでした。はじめは不安で、日本人同士で固まってしまうと思いますが、トリノの場合は日本語学部もありますし、授業で話しかけたら友達になってくれる心の温かい人が多いので、あまり固執することなく臨機応変に対応してくださいw(決して作るなどということではないです！ただ、初めは日本人というだけで、本来なら性格が合わない同士なのにつるんでしまうみたいなケースが非常に多いと感じたので、要は見極めろってことです！w)

最後に、異国の地で一人で生活し、新しい友達を作る。留学にいった人たちみんなに、否応なく課せられる課題です。もしかしたら、上京してきた人は大学入学の時に同じようなことをしてるかもしれませんが、それでも日本とそれ以外の国だと大変さが段違いだと思います。そして大変だからこそ、記憶に強く残ることでしょう。これから先、就活活動や社会人となり、たくさんの壁にぶつかり、ときには自分自身が社会から否定されたように感じる時もあるかもしれません。そんなときに、何も飾っていない本当の意味での自分を受け容れてくれたイタリア、そして友達たちとの思い出は、あなたのことを強く支えてくれるでしょう。かなり長くなってしまいましたが、この報告書を最後まで読んでくれ、有難うございます。この報告書を通して、あなたがイタリアに少しでも興味を持っていていたら幸いです。そしてもし、少しでも行きたいという気持ちがあるのであれば、挑戦してください。心より応援しております。Ciao!

】

写真	説明
	<p>パリのディズニーランドへ旅行したときの写真</p>
	<p>自身の誕生日会で酔いすぎて、瓶ビールを飲んでる私と友達のピエトロ</p>
	<p>エジプト旅行の時の写真です。ラクダでぼられました。</p>
	<p>日本に帰る際の最後のホームパーティー</p>



【公表用】

費用調達

調達先	摘要	金額
在籍校奨学金	JASSO奨学金	850,000円
在籍校以外の奨学金	小山台財団	700,000円
現地インターン給与		円
		円
		円
		円
	合計	1,550,000円

支出経費

費目	予算額	実績	研修参加費に含まれる場合は、●を付ける	摘要
「研修参加費」 ※在籍大学・主催者に一括で支払うもの	円		←往復航空運賃	
			←宿泊費	
			←食費	
			←その他	
以下の欄には、上記「研修参加費」に含まれる予算額は記載しない。(二重)				
費目	予算	実績	摘要／差異の内容	
往復航空運賃	200000円	180000円		
学費				
在籍大学授業料	540000円	540000円		国立大学(日本)の授業料
現地学校等授業料	円	円		
その他	円	円		
現地滞在費				
家賃/宿泊費	1000000円	900000円		
食費	300000円	500000円		円安の影響により高騰
交通費	200000円	400000円		旅行、円安の影響
	円	円		
	円	円		
その他				
雑費	円	500000円		保険、日用品、携帯、デポジット、娯楽費など
	円	円		
	円	円		
合計	2240000円	3020000円	現地通貨レート	170円
			通貨単位名	ユーロ

※合計欄には「研修参加費」を含む費用の総額を記入のこと。

① 留学のテーマに関する報告

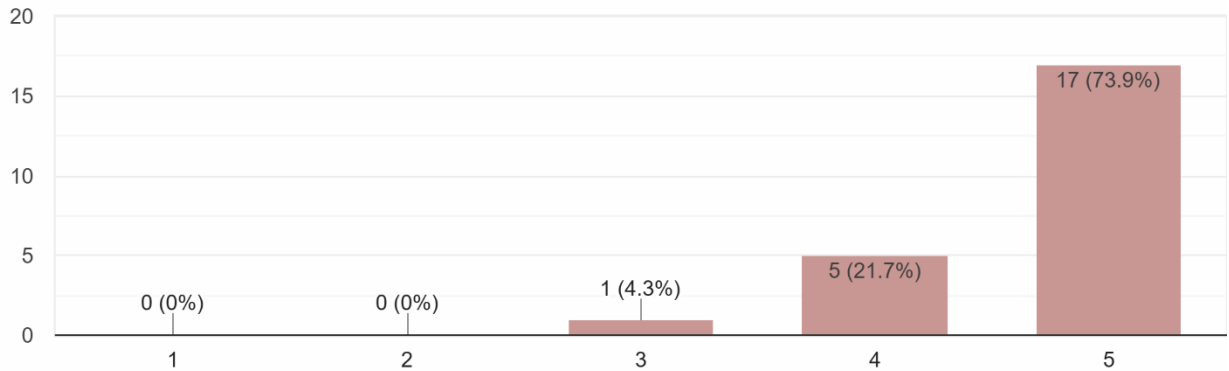
実は留学から帰る直前にアンケートを行いました。

このページでは、それを主にまとめます。

1. 日本に興味はありますか？

Sei interessato/a al Giappone?

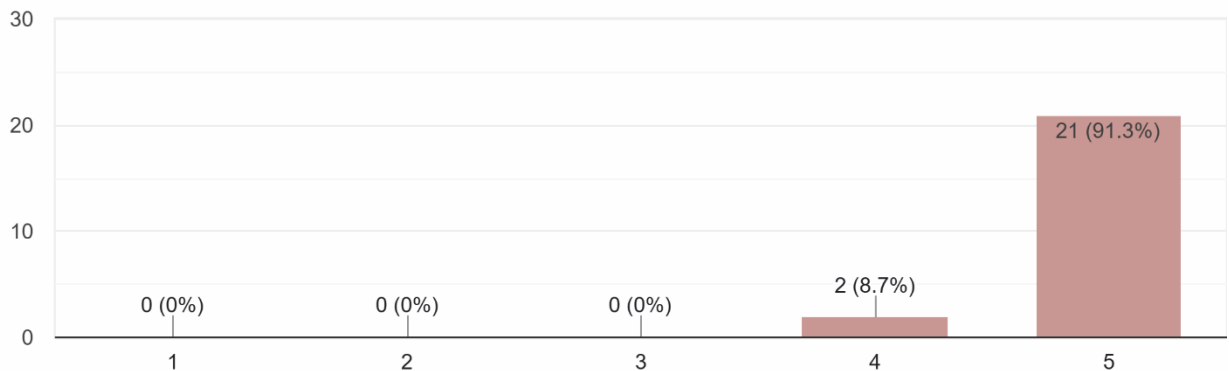
23 件の回答



2. 将来日本にいきたいですか？

Pensi di voler visitare il Giappone in futuro?

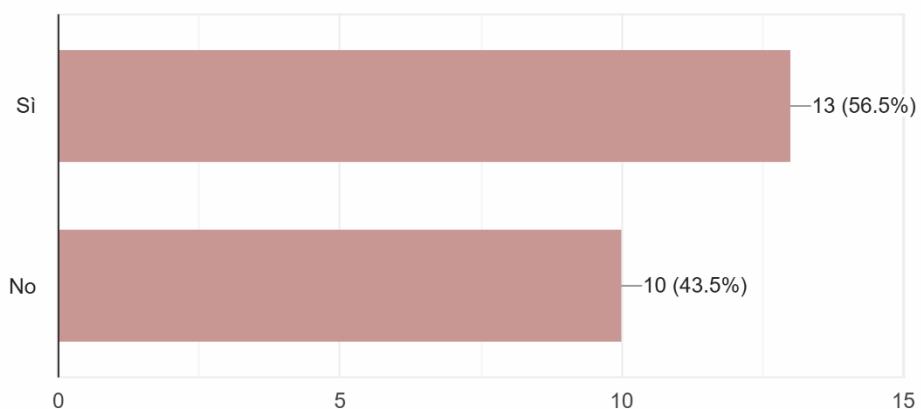
23 件の回答



3. 日本を勉強していますか？

Studi giapponese?

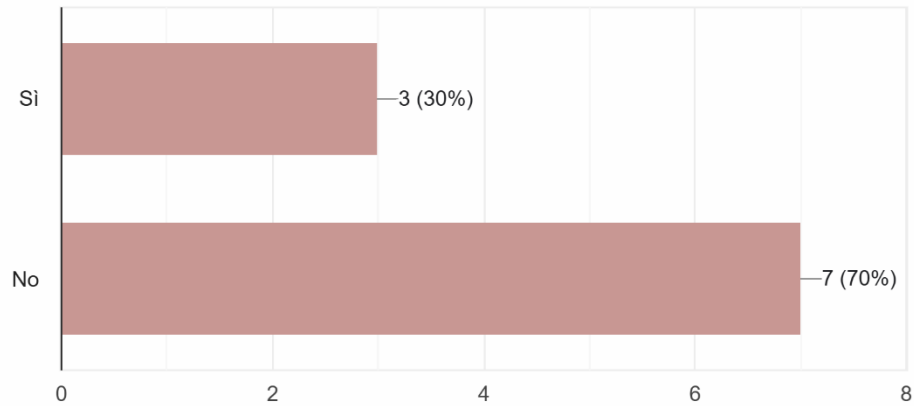
23 件の回答



4. 日本語を将来日本語を勉強したですか？

Se no, hai intenzione di studiarlo in futuro?

10 件の回答



5.なぜ日本に興味を？

Dragon Quest

La sua filosofia

mi compañero de piso

I miei amichetti che lo studiano

Anime

Manga e arte

La Nintendo

la lingua giapponese

La cultura (letteratura, storia, arte...)

anime, manga e cinema!

Cultura pop, anime, manga

Intrattenimento giapponese

I ragazzi giapponesi che ho conosciuto ad unito (ciao kotaro)

gli anime e i samurai

Aver conosciuto Kotaro kun

La letteratura giapponese

Multimedial contents

日本の歴史とアニメ

Naruto

Uno scambio universitario

Anime and manga: my first drawings were in that style. But also Stefano who went there, I was so jealous of him!

Cultura, Paesaggi, Cibo, Manga/Anime|

Mio figlio

上記の点から興味深かったのは、日本への興味をもったきっかけという項目である。

留学に行く前の仮説では、日本のアニメや漫画から日本語や日本文化に興味を湧く人が多いというのを立てていたが、実はそ例外にも小説だったり、映画という側面も非常に文化を伝えるものとして機能しているということがアンケートを通してわかった。

また、最終目標であった日本文化に興味をもってもらうという目的は、少数ではあったものの達成することができた。

この経験を通していたことはたくさんあるが、一番の学びたる挑戦を恐れないという学びは、これから何をやるにしても大切に、そして忘れずにやっていこうと思う。

前回報告者からの便り

前回報告者からの便り

1、事務局からの連絡

事務局の野田です。

海外チャレンジ支援報告者各位

このメールは、2022年に当財団の海外チャレンジ支援の帰国報告を行なって頂いた方に送っています。ご無沙汰しています。お元気でお過ごしのことと思います。

さて、皆さんにお願いがあります。

皆さんに続いて海外チャレンジ支援に参加した留学生諸君の報告会を、来る12月21日17時から小山台会館で開催予定です。報告会は、もちろん彼らの報告が主役です。それに加え「帰国留学生のその後」という内容で、皆さんからも報告をして頂けないか、と考えています。「留学が、今の自分にとって、どんな意味があったのか」というような視点で報告をしていただけたら、と思っています。当日、報告を聞きに来る現役の高校生や大学生にとって、皆さんの話は極めて有意義ではないかと期待しています。もし、ご協力頂けるようであれば、その旨、ご連絡ください。大変幸いです。また、ご無理な場合でも、近況報告などご連絡頂ければ嬉しく思います。

以上

2、佐藤曜有（あきなり）氏からの便り

- ・所属大学（留学時）：慶応大学 商学部3年
- ・留学期間：2021年9月～2022年6月
- ・留学先：Vienna University of Economics and Business（オーストリア）
- ・テーマ：ドイツ中小企業と日本中小企業の違いについて

野田さん

ご無沙汰しております。佐藤です。しばらくの間ご連絡も差し上げずに申し訳ございませんでした。野田さん並びに事務局の皆さんはいかがお過ごしでしょうか？

私は今年3月に無事大学を卒業し、現在、政府系金融機関である国際協力銀行の船舶・航空部という部署で勤務をしております。所属部署ではその名の通り、日本の船舶(海運や造船)及び航空業界を金融の面から支援するという目的の下、日々既往案件の管理や新規案件の発掘などといった業務

に励んでおります。現在の職を得られたのも、一重に貴財団にご高配を賜り実現することのできたウィーンへの留学経験があったからこそであると考えております。ご支援いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

さて、ご依頼いただいた件（12/21 報告会への参加）についてですが、恐れ入りますが、当日は既に別の予定を立てておりお受けすることができません。またの機会があればぜひご連絡いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤

野田です。

佐藤さんへ

早速の返信、嬉しいなあ。元気でなによりです。

国際協力銀行への就職、おめでとうございます。私が学生の頃は、日本輸出入銀行と言って輸出入振興の銀行だったと記憶しています。現在は、より広い視点で国際協力を支援する銀行、ということでしょうか。いずれにせよ、大変遣り甲斐のある仕事とお見受けいたしました。活躍、期待しています。報告会は、残念です。高校で海外派遣、大学で海外チャレンジ、就職先が国際協力銀行、と海外飛躍のモデルケースのような佐藤さん。是非、後輩たちの前で話をしてもらいたい、改めて思いました。来年も報告会は開催します。そのときは、頼みます。たまには会館にも顔をだしてください。大歓迎です。

以上

野田さん

温かいお言葉ありがとうございます。

元々好きだった航空業界の支援に携わることができ、非常に幸運に感じております。来年も同様に報告会が開催されるとのこと承知いたしました。モデルとまでは言いませんが、私のようなキャリアパスもあることをお伝えできたらなと思っております。機会があれば会館にもお邪魔させて頂きたいと思います。季節の変わり目ですから、お体にお気をつけてお過ごしください。

佐藤

3、丹羽いづみ氏からの便り

- ・所属大学（留学時）：東京外語大学 国際社会学部 2年
- ・留学期間：2022年8月2～26日
- ・留学先：University College Cork（アイルランド）
- ・テーマ：アカデミックレベルの語学力習得と異文化経験

小山台教育財団事務局 野田様

ご無沙汰しております。東京外国語大学丹羽いづみです。いかがお過ごしでしょうか。まず12月21日の報告会ですが誠に恐縮ではございますが、参加を辞退させていただきたく存じます。というのも、現在就職活動を行っており、インターンシップや企業イベントの予定が読めず出席の確約が出来ないためです。お力添え出来ず申し訳ございません。

そして近況報告をさせていただきます。アイルランドでの短期留学後、再度長期留学をしたいと考えるようになり、昨年9月から今年6月までロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）にて交換留学をして参りました。SOASでは開発学や東南アジアに関連する授業を中心に受講しました。開発学の授業が特に印象的で、中でも植民地支配が与えた多大な影響に強い衝撃を受けました。全て英語で行われる授業にはいつまでも慣れず苦勞の多い毎日でしたが、大学生活以外にも様々なことをしてみたいと思い、アルバイトや旅行にも行きました。アルバイトは日本食レストランのホールスタッフとして働きました。仕事自体は難しいものではありませんでしたが、ロンドンで働く経験が出来たことを非常に嬉しく思います。そして旅行はイギリス滞在中にできる限り多くのヨーロッパ諸国に訪れようという目標を立て、合計20カ国に行きました。内15カ国には1人旅で訪れました。節約のために宿泊したホステルでは様々な場所から来た様々な方に出会い、お話しすることが出来ました。20カ国に訪れた経験、1人旅をした経験、ホステルでの経験、全てが私にとっては新鮮でかけがえのない思い出になりました。そして1人旅を不安になり過ぎることなく楽しむことが出来た点に自分自身の成長を感じました。総じて非常に有意義な留學生活を送ることが出来ました。そして大学生活、日常生活の中でアイルランドでの経験に支えられたと感じた出来事は数え切れない程多く、アイルランドに行く決断をした自分を誇りに思うと同時に、貴財団への感謝の念を一層強く感じました。

留學に伴い卒業を1年延ばしたため、帰国後は就職活動に取り組んでおります。そして10月からは新学期も始まり日本での大学生活も再開しました。長文となりましたが、以上で近況報告とさせていただきます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

丹羽いづみ

野田です。

丹羽さんへ

素敵な近況報告、ありがとうございます。大変楽しく読ませていただきました。

審査の段階で、丹羽さんの評価は非常に高く、なぜ長期留学をしないのか、という意見があったことなど記憶しています。近況報告を読んで、「やはり」と合点しました。「ロンドン大学東洋アフリカ研究学院」とは、また素晴らしいところに留学しましたね。「植民地支配が与えた多大な影響」については、是非、直接お話を聞きたいと思いました。高校時代に留学、大学で短期留学、そしてさらに長期留学。是非、後輩諸君に聞かせたい話です。今年は残念ですが、来年の報告会では、その後も含めて是非話をしてもらいたいと思います。期待しています。もし、都合がつけば、今年の報告会にブラッと顔を出してみませんか。大歓迎ですよ。

さて、丹羽さんが、この後、どんな選択をするのか、とても興味があります。海外の大学院に留学して、国際機関で働く、という選択肢も是非加えてほしいなあ、と思います。引き続きのご活躍、期待しています。

以上

小山台教育財団事務局 野田様

東京外国語大学 丹羽いづみです。

心温まるお言葉、ありがとうございます。まず私の近況報告ですが、報告会資料に掲載していただいて構いません。後輩のみなさんにとって少しでも参考になれば幸いです。

そして進路に関しては、現時点では卒業後は民間企業へ就職する意思を固めております。ただ、社会人経験を積んだ後、新たな目標が見つければ海外大学院へ進学する選択肢もあることは忘れずにいようと思います。貴重なご助言いただきありがとうございます。

改めまして、温かいお言葉をいただき心より感謝申し上げます。今後とも精進してまいりますので、よろしく願いいたします。

丹羽いづみ

海外チャレンジ支援募集要項（第7回）

第7回海外チャレンジ支援募集要項

公益財団法人小山台教育財団（以下、財団小山台）は、次世代を担う若者の成長に寄与するため海外チャレンジ支援（以下「本制度という」）を創設しました。本制度は、対象となる大学生に対して、海外における留学、研修、専門的研究、インターンシップ、ボランティアなど様々な活動を通じて学び・研鑽の実を挙げるとともに異文化体験を深める機会を提供することを目的としており、それを通じて我が国の将来を担う有為な人材の育成を支援するものです。

（記）

1. 本制度創設の目的と対象者

我が国を取り巻く環境は大きく変化しています。日本国内では長引く低成長と少子高齢化の進展、格差拡大、財政赤字の増大など難しい課題が山積しています。他方、世界の情勢をみると、経済不均衡の拡大、民族的・宗教的な要因にもとづく紛争の激化・社会的不安定化等が深刻な問題として認識されています。

財団小山台は、このような内外で山積する課題について、次の世代の主演となる若者が自分自身の問題意識を掘り下げ、自ら学び、実践するために、海外での留学ないし研修を実現できるような支援制度を創設することとしました。

本制度は、品川区在都立高等学校（小山台・大崎・八潮）の卒業生である大学生を対象として、異文化体験や実践的な諸活動を主眼とした海外留学・研修を通じて、日本では得ることができない経験を積み重ね、また独自の思考を深めることを支援するものです。

2. 支援する人材像

本制度では次のような人材への支援を想定しています。

- (1) 募集対象者であって、留学・研修を通じて次のような明確な意思を持ち、その志に従い自らの資質を伸ばそうとする人材。
 - ・ 海外における人々との交流を通じて新たな経験を糧として飛躍したいという意欲。
 - ・ 外国での環境において自立し、積極的に取り組んで海外の人たちとの交流を通じて異文化体験を深めようとする意欲。
 - ・ 自らの志を実現するための思考力・行動力を持ち、高い目標に対して挑戦し続けようとする意欲。
- (2) 本制度にもとづく留学・研修成果を財団小山台から外部に対して発信する活動等を積極的に参加・推進する意欲を持つ人材。

3. 助成受給者

この要項において、助成受給者とは、本制度により助成金を受ける学生をいいます。

4. 留学・研修の内容及び要件

(1) 支援の対象とする留学・研修の内容

本制度が支援対象とする留学・研修プログラムは、知識の習得にとどまらず、インターンシップ、フィールドワーク、ボランティア等多様な実践活動の形態を含む内容とします。

次の3通りの留学・研修態様から選択して応募してください。

1) 長期留学

応募者が在籍する学校の協定留学・認定留学ないし学術研究等の派遣・受入れプログラムに従い渡航し、3ヶ月以上1年未満の間、外国に滞在する場合。

2) 短期研修

応募者が在籍する学校が主催する短期研修・留学プログラムに従い渡航し、21日以上3ヶ月未満の間、外国に滞在する場合。

3) 多様性キャリア開発

上記 1) 長期留学 ないし 2) 短期研修にあてはまらない計画(注)で、専門機関・国際機関等に所属し、21日以上1年未満の間、外国に滞在する場合。

(注) 芸術・日本文化・政治・行政・教育・メディア・国際協力・復興支援・ファッション・スポーツ・古典芸能の分野において研鑽を深め、専門性を高める目的で渡航することを想定しています。

(2) 留学・研修の要件

支援の対象とする留学・研修は次に掲げる要件を全て満たすものとします。

- 1) 2023年8月1日から2024年3月31日までの間に外国において留学・研修が開始されること。
- 2) 諸外国における留学・研修期間が21日以上1年未満であること。留学・研修期間とは、授業や実習の開始日から終了日までの期間のことであり、渡航及び帰国のみに関わる期間は留学・研修期間に含まれません。
- 3) 留学・研修先における受入れ機関(以下「留学先機関」という。)が存在していること。
- 4) 教育上有益な学修活動であること。
- 5) 留学・研修の目的に沿った実践活動が含まれていること。語学留学・研修のみの場合は、支援の対象になりません。
- 6) 外務省の示す危険情報・感染症情報のレベル3(渡航中止勧告)又は、レベル4(退避勧告)の地域への渡航ではないこと。渡航時点で、これに該当する場合は支援対象とはなりません。ただし、在籍大学独自の留学生派遣基準に基づき渡航を許可している場合は、前文の規定は適用しません。

5. 審査の観点

本制度の審査は、「海外での経験を通じて自らの思考を深め、将来国際的な視野で活躍できる人材」を育成するという観点を重視して行います。

(1) 人材のイメージ

本要項の「2. 支援する人材像」で示した人材であること。

(2) 学修活動計画（実践活動を含む。）

1) 留学計画の内容

① 志望動機

留学・研修に対する強い意欲があり、整合性のある説明がなされていること。

② 明確な目的意識

留学・研修に対する目的意識が明確であること。

③ 目的・内容の具体性

目的を十分に達成するための計画を具体的に立案していること。

④ 財団小山台が支援する意義

本項①～③が本要項「1. 本制度創設の目的と対象者」に合致すること。

2) 成果測定と成果の活用

留学・研修により得た成果/経験を将来にわたり活用できるようなビジョンないし計画があること。

3) 留学・研修を充実させる為の取組み

① 計画を充実させる活動実績

今回の留学・研修計画を遂行するにあたり、その基礎となる取組み実績があること。
(資格試験や語学テスト等の結果を含む。)

② 留学・研修に向けた具体的な準備の状況

今回の留学・研修計画を充実させる準備を具体的に立案していること。

4) 留学・研修計画の実現可能性

① 実現可能性が高い計画であること。(留学先機関の受入れ許可証等ないし留学・研修先機関との電子メール記録等の留学・研修計画の実現性を明示できる文書の写しがあれば添付すること。)

② 留学準備の内容やスケジュールが、留学計画を実現するに当たり適切であること。

6. 助成金

(1) プログラム別の助成基準額

財団小山台が、以下に掲げるプログラム別基準額を参考として、助成受給者を決定する際に個別に助成額を決定する。

プログラム	基準額
長期留学	70 万円
短期研修	20 万円
多様性キャリア開発	60 万円

(2) 助成金の支給方法

助成受給者が、渡航費用ないし留学先機関への入学金・授業料等の領収書写しの必要書類（「10. 申請書類の提出から支給までの流れ」をご覧ください。）を財団小山台宛てに提出後、かつ海外渡航を確認後、1回ないし2回に分割して支給します。（詳細は助成受給者宛て個別に通知します。）

7. 助成受給者の予定人数

各コース1名ずつ、計3名（予定）。なお、助成受給者の人数は、応募・審査の状況等により変動することがあります。

8. 助成受給者の要件

本制度の対象となる助成受給者は、次の(1)～(6)を全て満たすことが要件となります。

- (1) 品川区にある都立高等学校（小山台・大崎・八潮）の卒業生である大学生。
- (2) 日本国籍を有する大学生又は日本への永住が許可されている大学生
- (3) 留学先機関が留学・研修の受入れを認める大学生
- (4) 留学に必要な査証を確実に取得し得る大学生
- (5) 留学終了後、日本の在籍大学で学業を継続又は学位を取得する大学生

留学計画期間中であっても、卒業等により日本の在籍大学に在籍しなくなった場合は、財団小山台まで連絡してください。事情により助成受給者の採用を取り消し、既に支給している奨学金等の返納を求める場合があります。

- (6) 本助成で申請する留学・研修への支援を目的とする別の奨学金の給付を受けていない大学生。但し、在籍大学の支給する奨学金および貸与型の奨学金を除きます。

※在籍大学を通じて支給される「日本奨学支援機構（JASSO）留学助成金」は、「在籍大学の支給する奨学金」と見做します。

※助成受給者は他の奨学金の受給を辞退する旨の誓約書を提出することを条件とします。

9. 応募書類の作成及び提出

応募者は、本項(1)に定める留学計画書の様式をダウンロードして作成し、1)から3)を添付して財団小山台事務局に提出してください。

(1) 応募時に提出する書類の種類

海外チャレンジ支援制度・留学計画書（様式1）を作成し、下記の必要書類を添付の上、ご提出ください。なお添付する必要書類は、原則としてA4用紙で作成・提出をお願いいたします。（識別可能な範囲で縮小/分割コピー可）

※ 1)、2)については、申請時に既に用意できている場合のみ添付してください。

- 1) 留学先機関の受入れ許可証等、留学計画の実現性を証明できる文書の写し
 - ・ 留学合格通知・留学先機関の受入れ許可証・留学先機関とのメール文書
 - ・ 在籍大学の成績証明書ないし成績通知書（発行後3か月以内）
 - ・ TOEIC、TOEFL 等の語学検定試験の成績証明書
 - ・ その他
- 2) 留学の内容・日程・参加費等を記載した書類の写し
 - ・ 在籍大学や受入先機関のパンフレットなど留学の内容等を記載した書類
 - ・ その他
- 3) 高等学校の卒業証明書又は卒業証書の写し

(2) 提出方法と期間

challenge-shien@koyamadai.or.jp に留学計画のデータを送付の上、原本を 2023 年 2 月 11 日（土）10 時から 2023 年 2 月 25 日（土）16 時まで財団小山台事務局にご持参・郵送（2 月 25 日消印有効）ください。

※ 原本の受付を持って、応募完了とします。

※ 申請書類は全て A4 サイズ、フォントサイズ 10.5 を基本として作成してください。ただし、見えにくくならない範囲でフォントサイズを変更しても構いません。

※ 申請書類は日本語で作成してください。

※ 申請書類の作成に当たっては、様式等を参照の上、作成してください。欠落（不足）や記入漏れ等があった際には、審査の対象とならない場合があります。

※ 提出された申請書類等は返却しません。

※ データ送付時に財団小山台事務局に持参頂く日時をお知らせ下さい。担当不在の場合は、調整をさせて頂く場合がございます。

※ 留学計画書の追加・変更及び添付書類については、事情の変更等で応募書類提出後の追加・差し替えが必要な場合は、財団小山台事務局までご相談ください。

10. 申請書類の提出から支給までの流れ

2023 年 5 月 28 日（日）

面接審査： 会場 小山台会館

※ 面接時間は、2023 年 5 月 25 日（木）までに、財団小山台ホームページに掲載します。

※ 面接審査に伴う旅費等は、応募学生の自己負担とします。

2023 年 6 月中・下旬

採否結果の通知：面接審査受験者宛てに通知します。

2023 年 7 月以降（出発時期に合わせて調整）

手続説明： 会場 小山台会館

※ 日程については合格者に通知します。

手続説明終了後

助成金の支給開始：下記の 1)～6)の書類を提出後に支給します。

- 1) 口座届出書及び金融機関の通帳の写し
- 2) 渡航費用ないし留学先機関への入学金・授業料等の領収書の写し
- 3) TOEIC、TOEFL 等の語学検定試験の成績証明書の写し
- 4) 留学合格通知・留学先受入機関の許可証等の写し
- 5) 大学の在籍証明書の写し（発行後 3 ヶ月以内のもの）
- 6) 誓約書・保護者同意書

その他手続き上、パスポート（写）、ビザ（写）、健康診断書（写）、出発届出書（フライトスケジュール、現地滞在先等）、海外旅行包括保険証書（写）等を提出いただきます。（詳細は別途合格者にお知らせします。）

11. 報告書の提出と帰国後の報告会

助成受給者は、留学期間中及び終了後に、報告書の提出、報告会での成果の発表を実施していただきます。報告書の提出様式・提出方法及び報告会についての詳細は助成受給者宛て文書にて案内します。

(1) 留学期間中の報告：「プログラム実施報告書（経過報告書）」

助成受給者は、留学修了までの間、3か月毎に「プログラム実施報告書（経過報告書）」を財団小山台事務局に提出し、学修の状況及び留学先機関での在籍について報告する必要があります。ただし、3か月未満の留学・研修では、本報告書は不要です。

(2) 留学終了後：「報告会」「修了報告書」

助成受給者は、留学終了後1か月以内に「修了報告書」を財団小山台事務局に提出していただきます。また、帰国後、報告会にて成果を発表していただきます。

12. 留学計画等の変更

助成受給者として採用決定後に天災、病気または、留学先機関のやむを得ない事情により、留学計画の内容に影響を及ぼすことが明らかになった場合、助成受給者は財団小山台事務局に変更申請の手続きをとる必要があります。なお、変更による支援額の増額は、原則として認められません。

※選考期間中に変更が生じた場合、速やかに財団小山台に連絡してください。

変更後の計画内容によっては、再審査の対象となり、その結果計画変更が承認されず、採用取消しになる場合がありますのでご注意ください。

13. 採用取消し又は支援の打ち切り等

財団小山台は、以下のような場合に、助成受給者として採用後も助成受給者の採用を取り消し、既に支給している奨学金等の全額又は一部について返納を求めることがあります。

- (1) 本要項「4. (2) 留学・研修の要件」「8. 助成受給者の要件」を満たさなくなった場合。
- (2) 在籍大学ないし留学先機関において懲戒処分を受ける等により留学の中止が適当であると認められた場合。
- (3) 採択された留学計画内容に大幅な変更がある場合であって、再審査の結果、不採択と判定された場合や、自己都合により途中で辞退する場合。
- (4) 申請内容に虚偽があると認められた場合。
- (5) 学業不振、素行不良等が顕著で、本制度による支援を受けるにふさわしくないと財団小山台が判断した場合。

14. その他留意事項等

渡航および現地滞在中の安全について、財団小山台は責任を持ちません。この点については自ら判断してください。留学に当たって現地の安全情報に十分注意し、留学後も随時状況確認ができるよう、在籍大学等や留学先機関と連絡を密にするようにしてください。

また、留学に関する安全情報の収集手段として、外務省の「領事サービスセンター（海外安全担当）」の情報提供サービス等を活用してください。なお、留学先国・地域の状況から安全な留学が困難と認められる際には、助成受給者としての支援を見合わせる場合があります。

また、渡航後は、日本大使館や総領事館に在留届を提出してください（海外に3か月以上滞在する際には在留届の提出が義務付けられています）。在留期間が3か月未満の場合についても、「たびレジ」に登録することで在留届と同様に緊急情報の提供を受けられるので登録をするようにしてください。

（たびレジ：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>）

[海外安全情報等照会先]

○外務省領事局 領事サービスセンター（海外安全担当）

〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1（外務省庁舎内）

TEL：（代表）03-3580-3311（内線 2902、2903）

ホームページ http://www.anzen.mofa.go.jp/about_center/index.html

15. 個人情報の取り扱いについて

本制度の募集や採用等に係り提出された個人情報は、本制度のために利用されます。この利用目的の適正な範囲において、大学等教育機関、在外公館、行政機関、公益法人及び業務委託先等に対し、必要に応じて提供され、その他の目的には利用されません。

以上